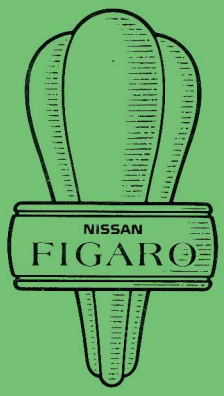
ご使用前に必ずお読みください。



FIGARO

取扱説明書

シートベルトをしめましょう。

このたびは、フィガロをお買いあげいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、フィガロの持つ性能を十分に発揮していただけますよう正しい取り扱い方と、簡単なお手入れ方法について説明してあります。
また、ドライバーとして最低限必要な心がまえなどについても記してあります。

安全・快適なカーライフはおクルマを正しく取り扱うことから始まります。ご使用前に本書を必ずお読みください。

ご不明な点は、担当営業部員にお申しつけください。

●注文装備等も含んでおります。
●別冊の「整備手帳」もよくお読みください。

※車両の仕様変更等により、本書の内容の一部が車両と一致しない場合もございますので、予めご了承ください

目次　Contents

■イラスト目次　スイッチ、メーター類の位置から説明ページを探すときにお使いください。　3

■安全・快適ドライブのために　4

■メーター・警告灯の見方　メーター、警告灯類　9

■スイッチの使い方　ライト、ワイパー・ウオッシャー等　15

■エンジンのかけ方、止め方　キー、キースイッチ、始動前の安全確認、エンジンのかけ方、止め方　21

■運転装置の使い方　オートマチック車の取扱い方、ハンドル、ブレーキ、ミラー等　27

■ドア等開閉装置の使い方　ドア、ウインドーガラス、エンジンフード、トランク、幌等　35

■シート、シートベルトの使い方　フロントシート、リヤシート、ヘッドレスト、シートベルト等　45

■室内装備品の使い方　時計、ルームランプ、サンバイザー、灰皿等　49

■ヒーター・エアコンの使い方　吹出口、ヒーター、エアコン　53

■アンテナの取り扱い　アンテナ　59
※オーディオの取り扱いについてはオーディオに付いている「取扱要領」をご覧ください。

■寒冷時の取り扱い　タイヤチェーン、エンジンのかけ方等　61

■緊急時の処置　故障したときは、けん引するときは、オーバーヒートしたときは、バッテリーあがりしたときは、ヒューズが切れたときは　67

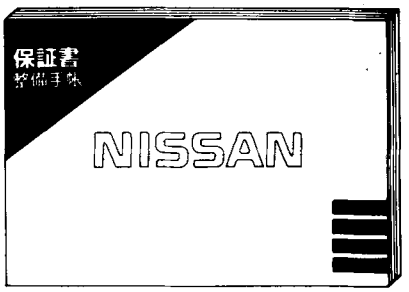
■車載工具・タイヤ　車載工具、ジャッキアップのしかた、スペアタイヤ、タイヤの交換等　73

■車のお手入れ　点検と整備、運行前点検、6か月点検、簡単な整備、ボディー塗装、内外装のお手入れ等　79

■索引　スイッチ、メーター類の名称、装備品等から説明ページを探すときにお使いください。　96

“保証書・整備手帳”もあわせて
お読みください。

点検整備は安全・快適なドライブを楽しんでいただくためのおクルマの健康診断で、整備手帳はカルテとなります。
また、保証書にはおクルマが故障したときに無料で修理が受けられる条件や範囲を記載しております。



点検時期と保証期間

	新車	1か月	6か月	1年	2年	3年	4年	5年
点検時期		1か月（または1,000km時）無料点検	6か月（または5,000km時）無料点検	12か月点検	6か月点検	12か月点検	6か月点検	車検（1か月前から受けられます）
				6か月点検	12か月点検	6か月点検	12か月点検	6か月点検
					6か月点検	車検（1か月前から受けられます）		

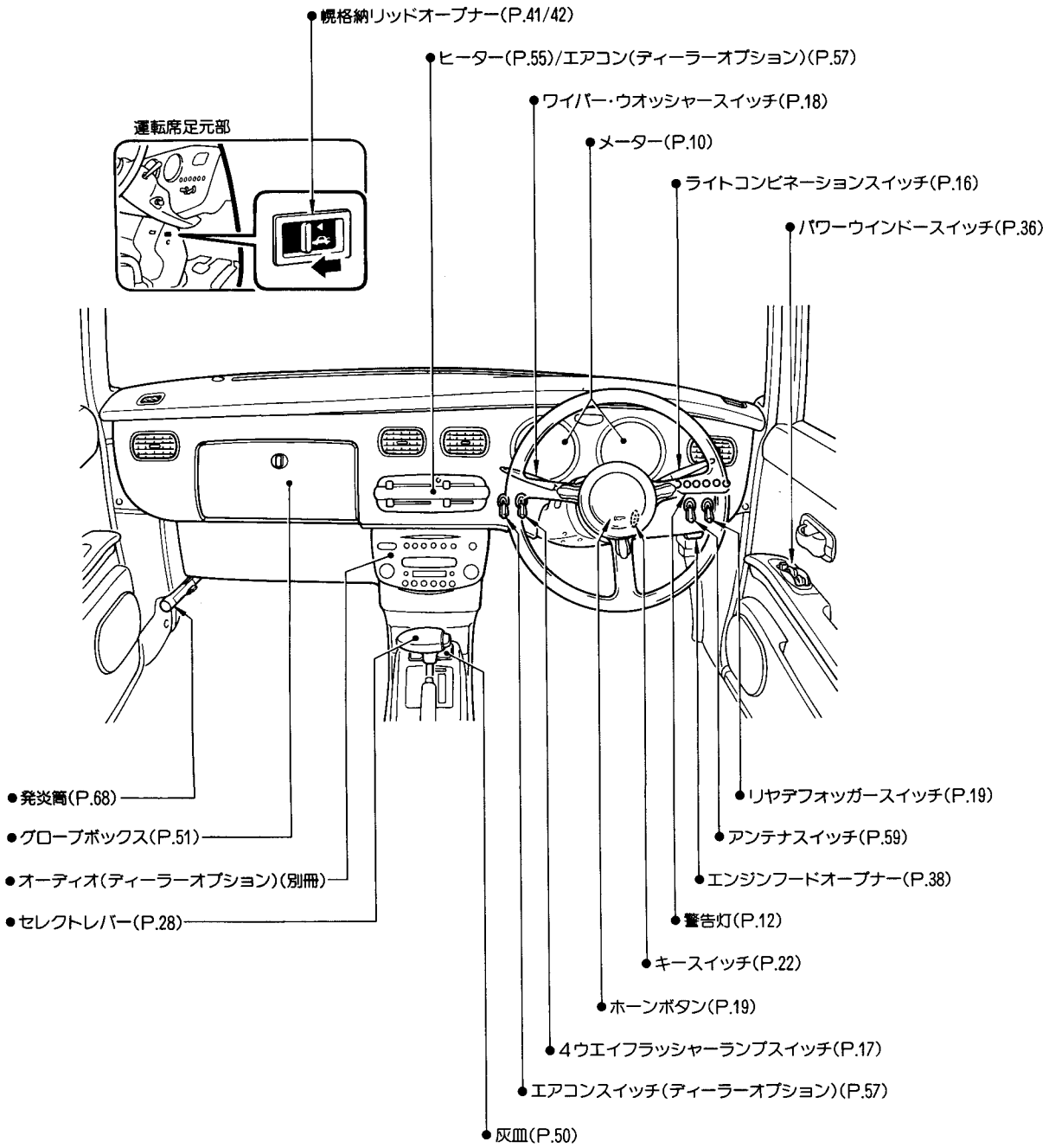
・自家用乗用車の車検は法律で初回（3年目）及び2回目以降（2年ごと）のすべてを24か月点検といいます。

（点検は6か月ごとに行ってください。）

保証期間		
一般保証部品	3年（または6万km以内）	（ただし一部保証期間の違うものがありますので、詳しくは保証書をご覧ください。）
特別保証部品	5年（または10万km以内）	

イラスト目次

運転席前方及び側方にある装置又はスイッチについて案内してあります。詳しくは(　　)のページをご覧ください。



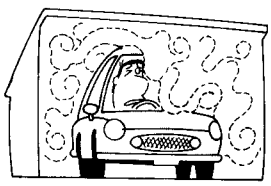
いい運転。日産からのお願いです。

クルマの機能をよく知り、正しく使う

■車庫内では…

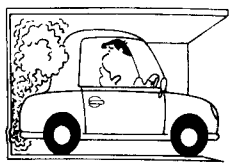
●エンジンをかけたままにしない！

・排気ガス中毒を防ぐためエンジンをかけたままにしないでください。
・やむをえない場合は十分な換気をしてください。



●車の後方確認を！

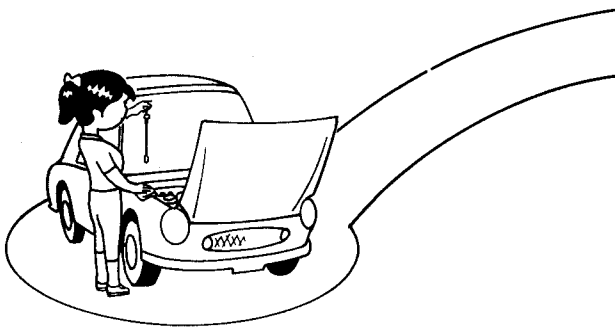
・後方に燃えやすいものがあると万一の場合着火する恐れがあります。
・燃えやすいものがないか確認し、壁とのすき間も確保してください。
・エンジンの空吹かし高回転は禁物です。



お出かけ前の車のチェック

■運行前の点検は確実に！

・「車のお手入れ」の項(P.79)を参照し、運行前点検は確実に行ってください。
・ラジエーター キャップが熱いときははずさないでください。蒸気や熱湯が噴き出し危険です。
・油漏れのあとがあったり、ブレーキ液などの不足があったときは日産販売会社で点検を受けてください。



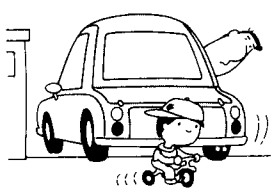
■安全のために…

●可燃物を積まない！

・車には燃料のはいった容器やスプレー缶などは積まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると危険です。

●車を後退させるときは十分な後方確認を！

・バック ミラーだけの確認では不十分です。車から降りて確認するか、他の人に誘導してもらってください。

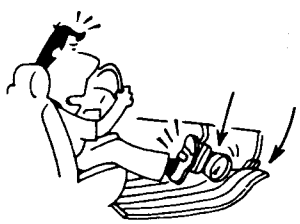


●大きなものや重い荷物を積み過ぎない！

・後方確認が不十分になったり、車が不安定になったりして危険です。

●運転席付近や足元に物を置かない！ フロア マットは正しく敷く！

・ブレーキ ペダルに物がはさまったり、アクセル ペダルにフロア マットが引っかかるとペダル操作ができず危険です。



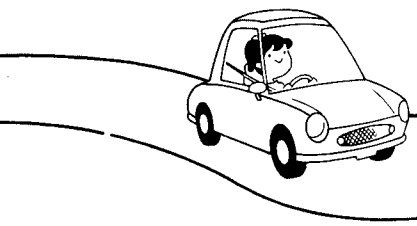
ことが安全・快適ドライブのコツです。

シートベルトの装着チェック

■シートベルトは正しい位置に確実に！

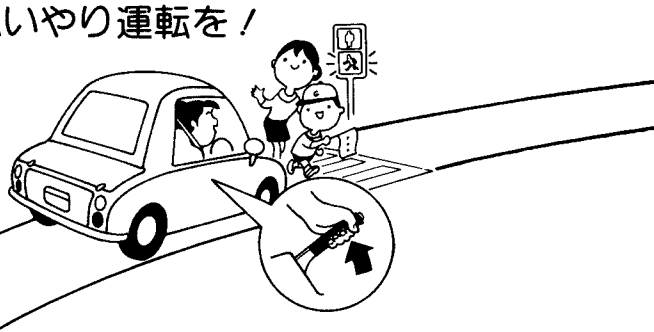
●シート ベルトは必ず装着する！

・正しい装着方法は「シート・シート ベルトの使い方」の項(P.45)を参照してください。



こころのチェック

■ルールを守って、ゆとりのある思いやり運転を！



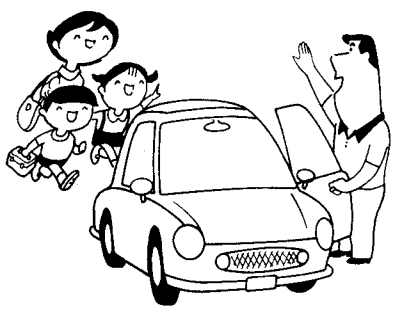
●パーキングブレーキは確実に！

■お子さまを乗せるときは…

●ドアやウインドーの開閉はおとながする！

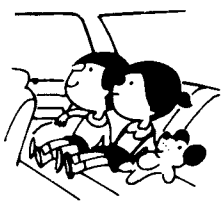
・お子さまが手などをはさむ場合があり危険です。開閉はおとながしてください。

・パワー ウインドー ロック スイッチを使用してください。



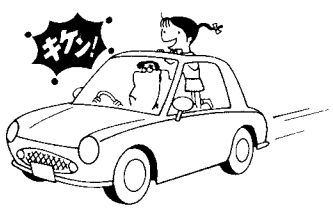
●ドアは必ずロックする！

・「ドア等開閉装置の使い方」の項(P.35)を参照してください。



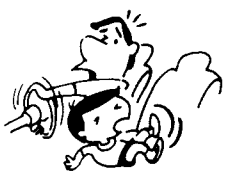
●窓から顔や手などを出さない！

・窓から顔や手を出すと危険です。おとなが注意してあげてください。



●お子さまはなるべく後席へ！

・安全運転のさまたげになったり、万一のときに放り出される心配があります。なるべくおとなといっしょに後席にのせてください。



■高速道路に入る前には燃料など再確認を

●燃料は目的地まで十分に！

・無鉛ガソリンを補給してください。

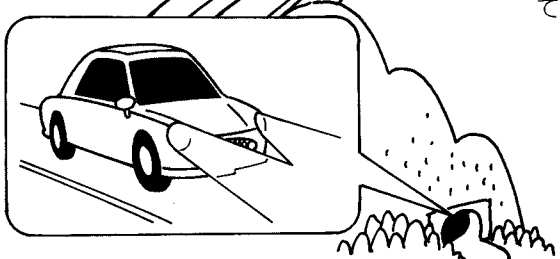
●停止標示板を忘れずに！

■夜間やトンネル内では照明装置を正しく使いましょう

●トンネルでは照明・車速に注意！

・照明の悪いトンネルでは進入直後、視界が悪くなることがあります。事前にライトをつけ車速を落して進入してください。

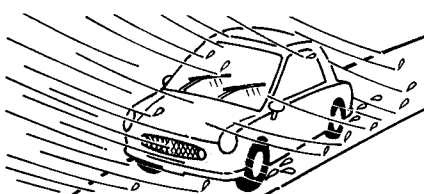
・トンネルを出た後はライトの消し忘れに注意してください。



●強風・横風に注意！

・風が強いときはハンドルをしっかり持って運転してください。

■悪天候の走行は安全最優先で



●水たまり走行後や洗車後はブレーキの効き確認を！

・水たまり走行後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

・効きが悪い場合は低速で走行しながらブレーキ ペダルを軽く数回踏んでブレーキをかわかしてください。前後の車に十分注意して行ってください。

●坂道駐車はパーキングブレーキとギヤ併用を！

・坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実にかけ、エンジン停止後ギヤを入れてください。

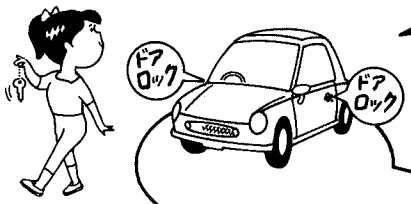
・急な坂では木片、石などで輪止めをしてください。

●坂道で車を少し動かすときもエンジンをかけて！

■車から離れるときは エンジンを止める！

●エンジンを止めドアロックを確実に！

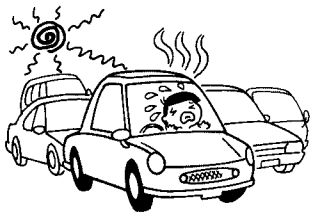
・盗難や火災など、思わぬ事故を防止するためドアロックは確実に行ってください。

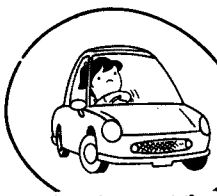


●お子さまだけを車内に残さない！

・お子さまのいたずらで車の発進、火災など思わぬ事故が発生する恐れがあります。

・炎天下では車内が高温となり危険です。





●ハンドルをいっぱいに切った状態を長く続けない！

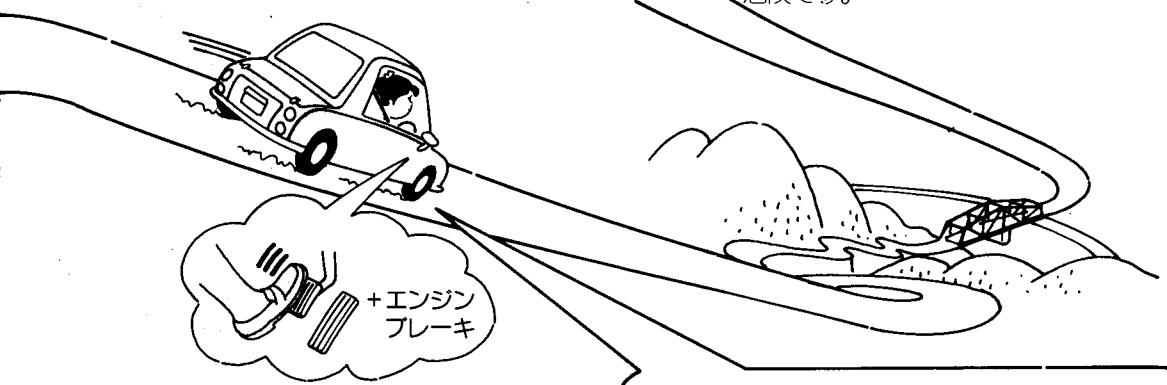
・オイルの潤滑不良を起こし、パワーステアリング ポンプを損傷する恐れがありますので長く続けないでください。

●燃えやすいものの上に止めない！

・枯草、紙、油など燃えやすいものの上には車を止めないでください。走行後の排気管は温度が高いため着火する恐れがあります。

●仮眠するときは必ずエンジンを止める！

・無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして車の発進、火災など思わぬ事故を招く恐れがあり危険です。



●下り坂ではフット ブレーキとエンジンブレーキの併用を！

・フット ブレーキを踏み続けるとブレーキの過熱でブレーキの効きが悪くなり危険です。エンジン ブレーキを併用してください。

・ぬれた路面や雪路、凍結路などは急激なエンジン ブレーキはさけてください。タイヤがスリップする危険があります。

●走行中にエンジンを止めないでください。

走行中にキーをＡＣＣ、１（ＯＦＦ）、ＬＯＣＫ位置にすると

・パワー ステアリング装置やブレーキ倍力装置のパワー機能が作動しなくなり、操作力が非常に重くなるため危険です。

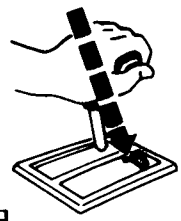
・排気ガス浄化装置が正常に作動しなくなり、触媒装置などを焼損する恐れがあります。

・ＬＯＣＫ位置でキーが抜けるとハンドルがきれなくなり危険です。

オートマチック車
シフトロック装置付

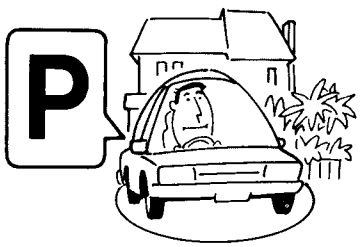
安全な発進操作の4つのポイント

1 セレクト位置を確認して

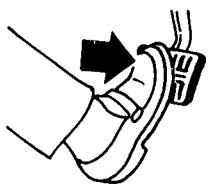


●エンジン始動前にセレクト レバーのⓅ位置を目で確認してください。
・エンジンはブレーキ ペダルを踏みセレクト レバーをⓅ位置で始動させます。

●駐車するときはセレクト レバーをⓅ位置にしてください。
・セレクト レバーをⓅ位置にしないとキー スイッチからキーが抜けません。

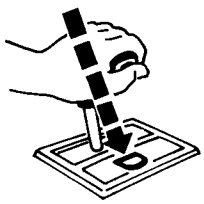


2 ブレーキを踏んで



●エンジン始動後はブレーキペダルを踏んでください。
・ブレーキ ペダルを踏んでいないとセレクト レバーがⓅ位置から操作できません。

3 セレクト位置を確認して



●セレクト レバー位置を確認してください。
・前進はⒹ、後退はⓇ位置にします。
・Ⓡ位置にすると室内でブザーが鳴ります。

4 ゆっくりアクセルを踏む

●発進するときはアクセル ペダルをゆっくり踏んでください。
・ブレーキ ペダルから徐々に足を離しアクセル ペダルをゆっくり踏み発進します。

■シフト ロック装置とは

・セレクト レバーがⓅ位置のときはロック装置が作動し、キー スイッチがON位置でブレーキ ペダルを踏んでいないと、セレクト レバーの操作ができなくなります。

・セレクト レバーをⓅ位置にしないとキー スイッチからキーが抜けなくなります。

・キー スイッチがON位置のときセレクト レバーをⓇ位置にすると後退位置を知らせるブザーが室内で鳴ります。

「エンジンのかけ方」「運転装置の使い方」の項を参照し安全な操作を行ってください。

メーター・警告灯の見方

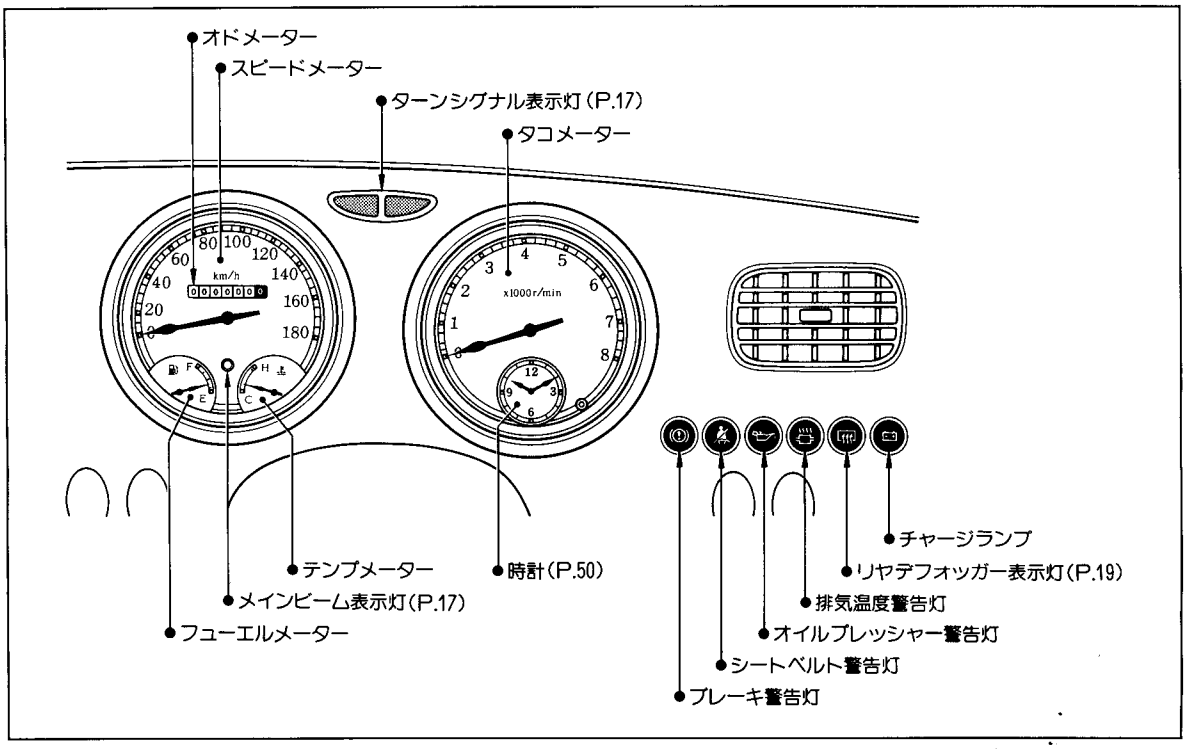
メーター 10

スピードメーター(速度計)……10
オドメーター(積算距離計)……10
タコメーター(エンジン回転計)……11
フューエルメーター(燃料計)……11
テンプメーター(水温計)……11

警 告 灯 12

球(バルブ)切れチェック……12
チャージランプ(充電警告灯)……12
オイルプレッシャー警告灯(油圧警告灯)……12
シートベルト警告灯……13
排気温度警告灯……13
ブレーキ警告灯……13

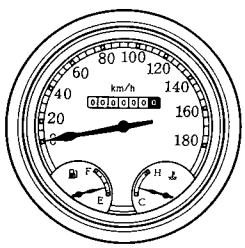
FIGARO



(　)内にページが記載してあるものは、「メーター・警告灯の見方」以外で説明しています。

メーター

■スピードメーター（速度計）



車の走行速度を示します。

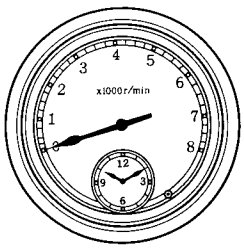
速度警報ブザー〈ディーラー オプション〉

- 約100km/h 以上になるとブザーが鳴り警告します。
- 速度警報ブザーは標準装備しておりませんので、取り付ける場合は日産販売会社にご相談ください。

■オドメーター（積算距離計）

総走行距離を km 単位で示します。ただし、右端の数字は 100m 単位です。

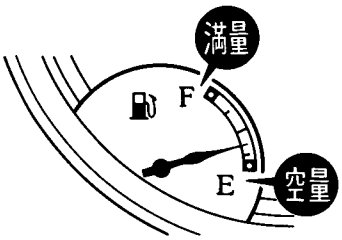
■タコメーター（エンジン回転計）



1分間あたりのエンジン回転数を示します。

注　意
- 指針が赤色表示部に入らないよう運転してください。エンジン故障の原因になります。

■フューエルメーター（燃料計）

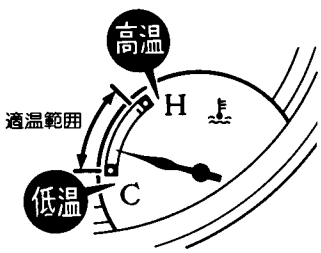


キースイッチをON位置にすると燃料の残量を示します。
燃料タンクの容量は約40ℓです。

注　意
- Eに近づいたら早めに無鉛ガソリンを補給してください。
- 無鉛ガソリン以外のものを使用すると排気ガス浄化装置の性能を損います。また粗悪ガソリンを使用すると、エンジンに悪影響を与えます。

知識
- 燃料補給後は指針が安定するまで少し時間がかかります。坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。

■テンプメーター（水温計）



キースイッチをON位置にすると、エンジン冷却水の温度を示します。

注　意
- 指針が適温範囲以上を示した場合はオーバーヒートの恐れがあります。ただちに安全な場所に車を止め処置をしてください。※オーバーヒートしたときは／P.70

警告灯

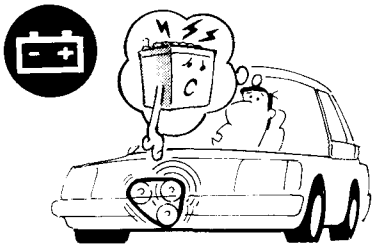
■球（バルブ）切れチェック

下図の警告灯は、キースイッチを1(OFF)から ON 位置にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

警告灯が消灯しているときは装置の作動は正常です。

エンジンをかける前にキースイッチ ON 位置で点灯することを確認してください。

■チャージランプ（充電警告灯）

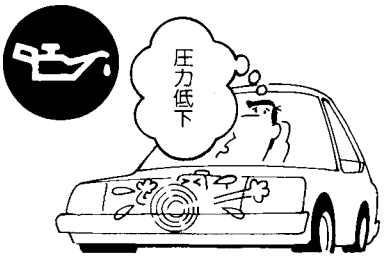


エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯し警告します。

注　意

・点灯した場合は、オルタネーター(ファン)ベルトの切れなどが考えられますので日産販売会社で点検を受けてください。　※オルタネーター（ファン）ベルトの点検／P.88

■オイルプレッシャー警告灯（油圧警告灯）



エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯し警告します。

注　意

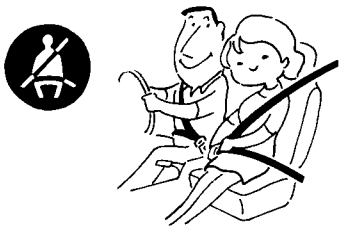
・エンジン回転中、点灯した場合はただちに安全な場所に停車してエンジンを止めてください。

・点灯したまま走行すると、エンジンが破損する恐れがありますので、日産販売会社で点検を受けてください。

・油圧警告灯は、オイル量の不足を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

※エンジンオイルの点検補給／P.85

■シートベルト警告灯



キースイッチをONにしたとき、運転者がシートベルトを装着していないと警告灯が点灯し、同時にブザーが約6秒間鳴ります。
シートベルトを装着すると警告灯は消灯し、ブザーが停止します。

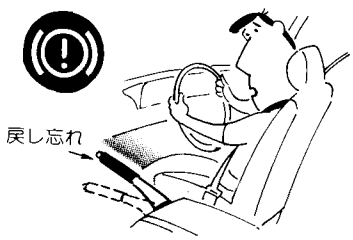
■排気温度警告灯

排気温度が異常に高くなると点灯し警告します。
キースイッチをSTART位置にしたとき点灯し、エンジンをかけると消灯します。エンジン回転中に消灯していれば排気温度は正常です。

注　意

- 走行中、警告灯が点灯したときは消灯するまで車速を落して走行してください。また、停車空吹かし中点灯したときはアクセルペダルを戻しエンジン回転を下げてください。
- 警告灯が消えないときやたびたび点灯するときは日産販売会社で点検を受けてください。

■ブレーキ警告灯



●パーキングブレーキ戻し忘れ警告
キースイッチがON位置でパーキングブレーキを引いたままのとき点灯し警告します。戻すと消灯します。

●ブレーキ液量警告
キースイッチがON位置でパーキングブレーキを戻したときブレーキ液が不足していると点灯し警告します。
※ブレーキ液の補給／P.84

注　意

- 走行前にキースイッチがON位置でパーキングブレーキを引いたときの点灯及び戻したときの消灯を確認してください。
- 点灯及び消灯しない場合は日産販売会社で点検を受けてください。

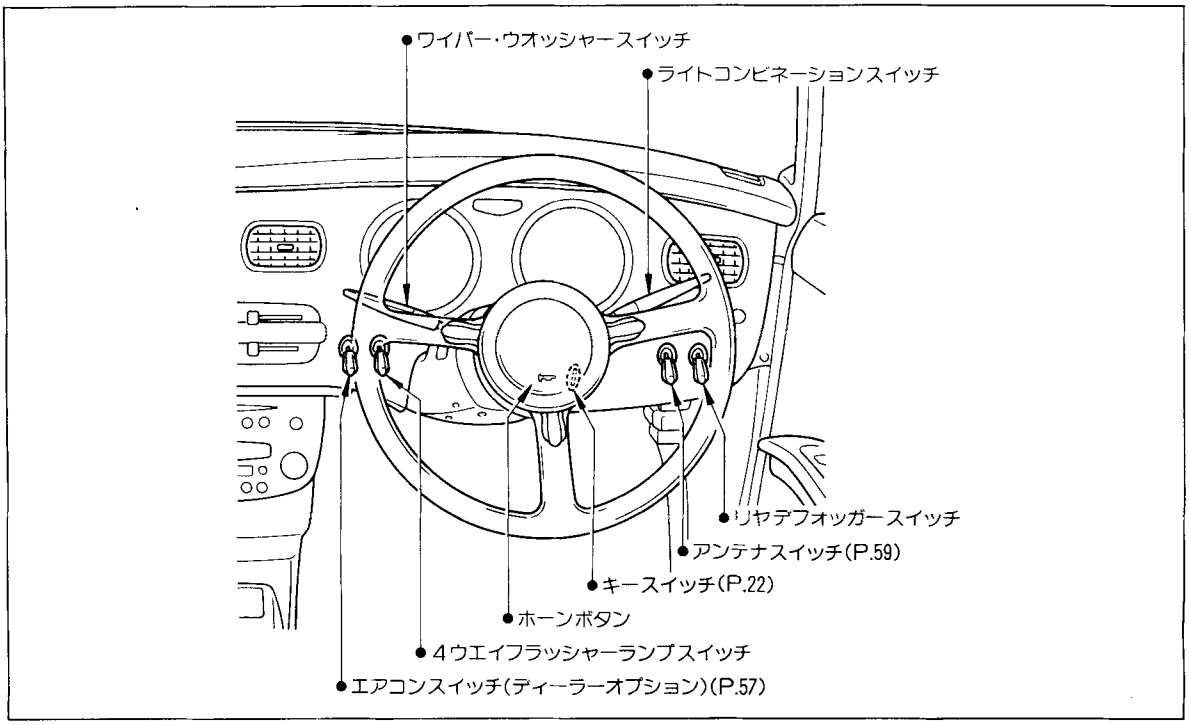
パッド摩耗警報装置

- ディスクブレーキにパッド摩耗警報装置が付いています。ブレーキペダルを踏まずにブレーキ付近から金属音(キー)が発生したら日産販売会社にご相談ください。

MEMO

スイッチの使い方

ライトコンビネーションスイッチ ……16
ライトスイッチ ……16
ターンシグナル(方向指示) ……17
4ウエイフラッシャーランプ(非常点滅灯)スイッチ ……17
ワイパー・ウオッシャースイッチ ……18
リヤデフォッガースイッチ ……19
ホーンボタン ……19



( )内にページが記載してあるものは、「スイッチの使い方」以外で説明しています。

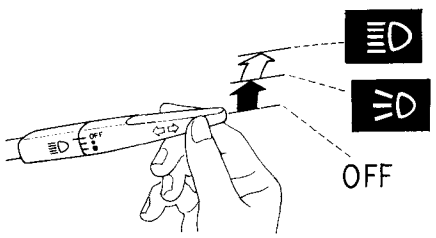
ライトコンビネーションスイッチ

ランプ類の点灯、ヘッドランプ(前照灯)の上下切り換え、方向指示灯の点灯などに使用します。

注 意

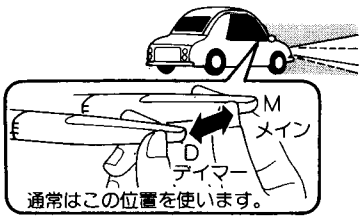
・エンジン停止時、ヘッドランプなどを長時間点灯させるとバッテリーあがりとなり、エンジンの始動ができなくなります。

■ライトスイッチ



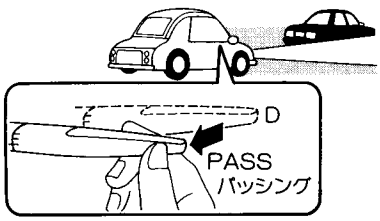
ランプ類の点灯、消灯に使用します。
キースイッチに関係なくツマミを回すとランプが点灯します。

ライトスイッチ位置	ヘッドランプ(前照灯)	クリアランスランプ(車幅灯) テールランプ(尾灯) ライセンスランプ(番号灯) メーター照明
OFF	消 灯	消 灯
1段	消 灯	点 灯
2段	点 灯	点 灯



●ヘッドランプの上下切り換え

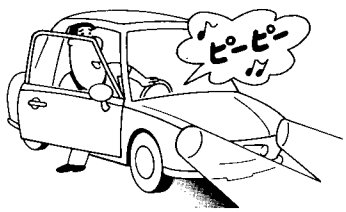
ヘッドランプ点灯時、レバーを前に押すとメイン（上向き）に切り換わります。
メインが点灯しているとき、スピードメーター内のメインビーム表示灯が点灯します。



●パッシング操作（追越し合図）

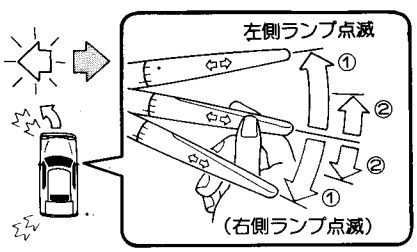
先行車を追い越すときなどの合図に使います。
レバーを手前に引いている間ヘッドランプのメイン（上向き）が点灯します。
ライトスイッチが OFF 位置でも使用できます。

ランプ消し忘れ警告ブザー



・ランプを消し忘れたままエンジンを停止させ、運転席のドアを開けるとブザーが鳴り警告します。
（キースイッチが ON 位置では鳴りません。）

■ターンシグナル(方向指示)

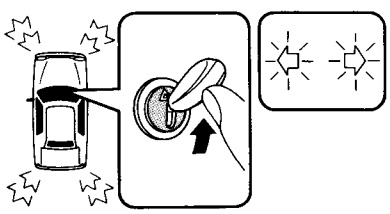


左折、右折のときや車線変更の合図として使用します。
キースイッチに関係なくレバーを上、下に操作すると方向指示灯及びメーター内の表示灯が点滅します。
左折、右折のときは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときは戻らないことがあります。戻らないときは手で戻してください。

レーンチェンジするときは

・車線変更などでは軽く手で②の位置におさえながら使うことができます。

4 ウエイフラッシャーランプ（非常点滅灯）スイッチ

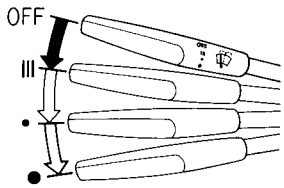


非常時に使用してください。
キースイッチに関係なくスイッチを上げると、全ての方向指示灯が点滅します。戻すと消灯します。

注　意

・エンジン停止時、長時間使用するとバッテリーあがりしてエンジンの始動ができなくなります。

ワイパー・ウオッシャースイッチ



●ワイパースイッチ

キースイッチがACC又はON位置のときレバーを下げるとワイパーが作動します。

OFF ……停止位置

III ……間けつ作動位置（作動・停止・作動のくりかえしで小雨の時などに使用します）

• ……低速連続作動位置

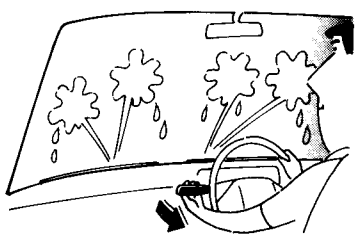
● ……高速連続作動位置

注　意

- からぶきは、ガラスに傷をつけますのでウオッシャーを作動させてから、ワイパーを使用してください。
- ワイパーブレードが張りついたまま作動させると、損傷したりモーターが故障することがあります。ガラスに張りついていないか点検してください。
- エンジン停止時、長時間使用するとバッテリーあがりしてエンジンの始動ができなくなります。
- ワイパーアームを起こしたまま作動させたり、エンジンフードを開けないでください。

知識

- 降雪時にワイパーを作動させていると、フロントガラス端に雪が溜り、ワイパーが停止することがあります。一度ワイパースイッチをOFFにし、溜った雪をフロントガラスから取り除いた後、再び作動させてください。雪は、早めに取り除いてください。



●ウオッシャースイッチ

レバーを手前に引いている間ウオッシャー液が噴射します。ウオッシャーを作動させるとワイパーも連動して数回作動します。

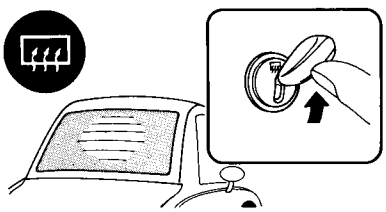
注　意

- 30秒以上連続して使用しないでください。また、ウオッシャー液がないときは使用しないでください。モーターの焼き付きの原因となります。
  ※ウオッシャー液の補給／P.88
- 寒冷時、ウオッシャーを使用するとウインドーガラスに噴きつけられたウオッシャー液が凍結し、視界をさまたげます。ウオッシャー使用前にウインドーガラスを暖めてください。
  ※ヒーター・エアコンの使い方/P.53

知識

- フロントガラスが、ワックス等で汚れていると正常にワイパーが拭きとらないことがあります。この場合は、フロントガラスを洗浄してください。

リヤデフォッガースイッチ



リヤウインドーガラス内側のくもりを取ります。
キースイッチが ON 位置のときスイッチを上げると作動します。このときランプが点灯します。
スイッチを戻すと作動が停止します。

注　意

- リヤウインドーガラスの内側の清掃は、熱線を切らないようやわらかい布で熱線方向に沿って拭いてください。
  また、研磨材入りガラスクリーナーや塩素系が含まれている洗剤などで清掃すると断線の恐れがありますので使用しないでください。
- デフォッガーは消費電力が大きいので、長時間の使用又は雨水の乾燥や雪などを溶かすような使用は避けてください。バッテリーあがりの原因になります。

知識

- 幌が開いているときは、リヤデフォッガースイッチを ON にしても、安全のため作動しません。

ホーンボタン

キースイッチに関係なく、ハンドルのラッパマークのところを押すとホーンが鳴ります。

MEMO

エンジンのかけ方、止め方

キー、キースイッチ 22

キー……22

キースイッチ……22

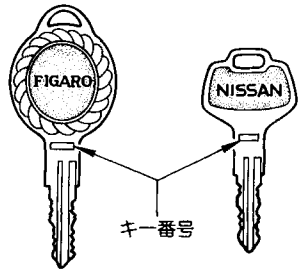
キーの抜き方……23

エンジン始動前の安全確認 24

エンジンのかけ方、止め方 24

キー、キースイッチ

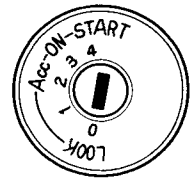
キー



キーは2本ついています。
1本は万一の紛失に備えて別に保管してください。

知識
・キー番号をひかえておくと万一、キーを紛失したとき日産販売会社で購入できます。

キースイッチ



PUSH（プッシュ） ……キーをLOCK位置に回すとき押します。

4 START（スタート） …エンジンを始動するときの位置
始動し手を離せば自動的にON位置に戻ります。

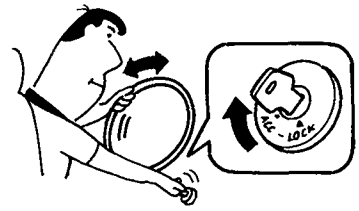
3 ON（オン）……エンジン回転中の位置

2 ACC（アクセサリー）……エンジン停止時ラジオなど使用する位置

1 （OFF）（オフ）……PUSHボタンを押せる位置

0 LOCK（ロック）……キーを抜き差しする位置
キーを抜くとハンドルがロックされ、車の盗難防止に役立ちます。

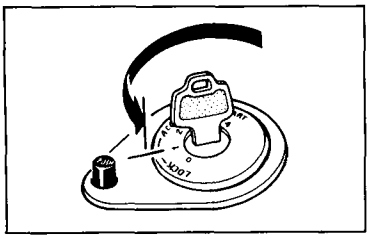
知識



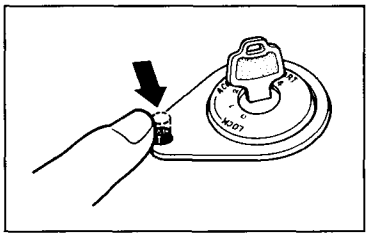
・ハンドルがロックしているときはキーが回りにくいことがあります。その場合はハンドルを左右に軽く回しながらキーを回してください。
・エンジンを止めて、ヒーターなどを長時間つけておいたり、キースイッチをON、ACC位置にしたままで放置しないでください。バッテリーあがりの原因となります。
・キースイッチに差し込んだときや、セレクトレバーをⓅからⓇⓃⒹ②①にレバー操作をしたときに“カチッ”という音が聞こえることがあります。これはキーロックが働いているためで、異常ではありません。

■キーの抜き方

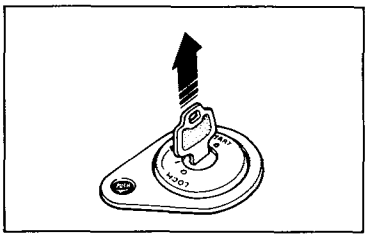
1 キーをLOCK方向に止まるまで回します。



2 PUSHボタンを押し込みます。



3 キーをLOCK位置まで回し、キーを抜きます。



セレクトレバーをⓅにします。

知識

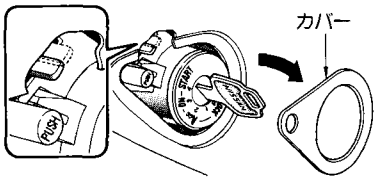
- PUSHボタンを押し込むと、ボタンから手を離しても、押し込まれたままになります。
- 押し込まれたPUSHボタンはキーをON位置方向に回すと元の位置に戻ります。

キーロック

- セレクトレバーがⓅ以外のときはPUSHボタンが押せません。また、Ⓟにあってもセレクトレバーボタンを押したままでは、キースイッチのPUSHボタンは押せません。これをキーロックといいます。

エマージェンシーレバー（緊急解除レバー）

- バッテリーあがりなどの原因により、セレクトレバーがⓅでもPUSHボタンが押せないことがあります。そのときは、キースイッチ周りのカバーを外し、右図のようにPUSHボタン横の赤いレバーをドライバーなどで下に動かすと、PUSHボタンを押すことができます。キーをLOCK位置まで回してキーを抜いてください。エマージェンシーレバーは緊急時以外には動かさないでください。

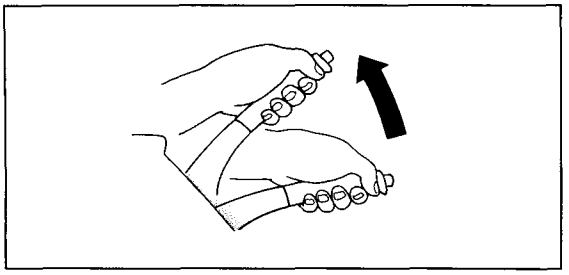


キー抜き忘れ警告ブザー

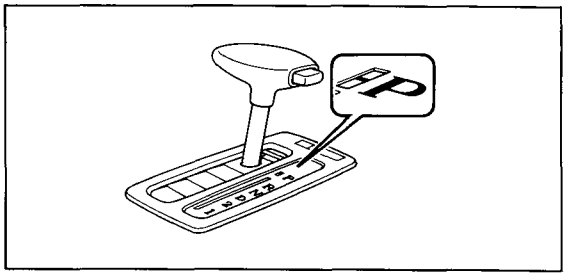
エンジンを停止させ、キーを抜き忘れたまま運転席のドアを開けるとブザーが鳴り警告します。

エンジン始動前の安全確認

1 パーキングブレーキレバーをいっぱいに引きます。



2 セレクトレバーがⓅにあることを確認します。



知識

・安全のためにパーキングブレーキを必ずかける習慣をつけましょう。

・ⓅまたはⓃ以外では始動しません。

エンジンのかけ方、止め方

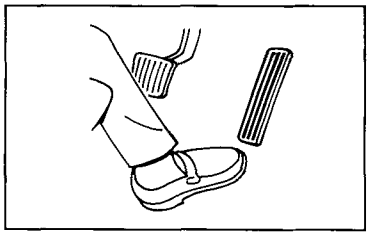
注　意

・始動直後はエンジンが冷えていますので、無用の空吹かしや高回転にしないでください。エンジンのためによくありません。

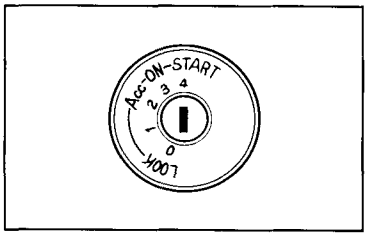
・エンジンが暖機されているときでも無用の空吹かしや高回転の運転は行わないでください。

かけ方

1 アクセルペダルは踏みません。



2 エンジンを始動します。連続10秒以上回さないでください。



3 暖機運転します。暖機されると自動的にエンジン回転が下がります。

知識

10秒間始動してもかからない場合

キースイッチ	一度1（OFF）位置に戻し電圧が回復するまで（10秒以上）待ち、再始動してください。
アクセルペダル	ペダル踏込量の¼ぐらいに踏み込んだ状態で始動し、エンジン回転上昇に合わせて戻します。

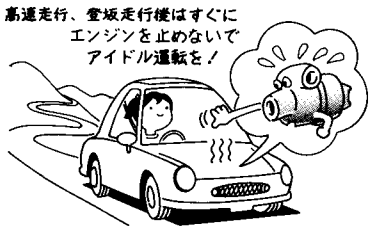
エンジンが暖かい場合の始動

アクセルペダル	アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだ状態で始動します。

暖機運転は長すぎず、短すぎず。

・水温計の針が動き出す（エンジン回転が下がる）程度で十分です。

止 め 方



高速走行、登坂走行直後は、すぐにエンジンを止めないで、下記の表にしたがって一度アイドル回転にしてから停止します。

運転状況		アイドル時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約80km/h 定速	約30秒
	約100km/h 定速	約1分
急な登坂連続走行		約2分

ターボ車の取り扱い

- ターボチャージャー（過給装置）は、同じ排気量で通常より多くの空気を供給（過給）し、大きな馬力が引き出せる装置で、非常に精密に作られています。
- 排気ガスのエネルギーを利用していますので、700℃以上の高温状態になり、しかも毎分10万回転以上の高速で回ることがあり、その回転部分の潤滑と冷却はエンジンオイルによって行っています。

●エンジンオイル、オイルフィルターは交換時期の厳守を

交換は必ず右記の時期に行ってください。
エンジンオイルは、日産純正モーターオイル「ターボX」7.5W-30SG級が最適です。
5W-30、20W-20などのオイルは使用しないでください。 ※エンジンオイルの点検/P.85

- このため、定められたエンジンオイルの交換と、高速走行、登坂走行後のアイドル運転時間をお守りいただかないと、劣化したエンジンオイルにより回転軸受部の固着や異音を生じることがあります。
- ターボチャージャーの性能を十分引き出すために始動直後の急加速や空吹かしは避けてください。

エンジンオイル交換	SD、SE、SF級	5,000km又は6か月ごと
	SG級	10,000km又は1年ごと
オイルフィルターエレメント交換		10,000km又は1年ごと

MEMO

運転装置の使い方

オートマチック（自動変速機）車の取り扱い方 28

オートマチック車の特性について……28
セレクトレバー……28
運転のしかた……30
エンジンの始動……30
発　進……31
走　行……32
一時停止……33
駐　車……33

パーキング(駐車)ブレーキ 34

バックミラー(後写鏡) 34

ルームミラー……34
ドアミラー……34

FIGARO

オートマチック（自動変速機）車の取扱い方

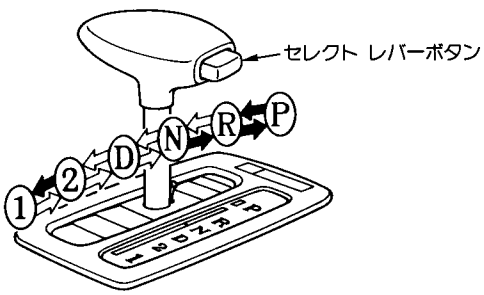
クラッチ操作とギヤチェンジを自動化したもので、その分操作の負担が軽くなり運転が楽になります。そのため、オートマチック車には幾つかの特性があります。また誤操作防止のためシフトロック装置がついていますので運転の基本を理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

■オートマチック車の特性について

クリープ現象

・セレクトレバーがⓇ、Ⓓ、❷、❶にあると動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動き出すオートマチック車特有の現象をクリープ現象といいます。このため、停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏むとともに必要に応じて、セレクトレバーをⓅ、Ⓝにしてください。さらに、エンジン始動直後やエアコン作動時など、エンジン回転数が高い（アイドルアップする）とクリープ現象が強くなり、車が動こうとする力が強まりますので、ブレーキペダルを特にしっかり踏んでいることが必要です。

セレクトレバー



・レバーの動かし方
⇨印はそのまま動かします。
➡印はセレクトレバーボタンを押して動かします。

Ⓟパーキング…… 駐停車するとき又は、エンジンを始動するときの位置
※シフトロック位置/P.29

Ⓡリバース…… 後退するときの位置
キースイッチが ON 位置のとき室内でブザーが鳴ります。

Ⓝニュートラル…… 中立位置

Ⓓドライブ…… 通常走行するときの位置

❷セカンド…… エンジンブレーキを使用するときの位置

❶ファースト…… 強いエンジンブレーキを使用するときの位置

注　意

・いつもセレクトレバーボタンを押してレバーを操作すると意に反して❾、Ⓡ、❶に入れてしまう恐れがあります。
⇨の操作はレバーボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。

・❾にするときや前進から後退、後退から前進にセレクトレバーを操作するときは、ブレーキペダルをしっかり踏み車を完全に止めてから一段ずつ確実に操作してください。

・少し後退したときなどはⓇに入れたことを忘れてしまうことがあります。
後退した後はすぐⓃに戻すように習慣づけ、発進時にはセレクトレバーの位置を目で確認してください。

知識

（単位：km/h）

2（セカンド）	0 ～ 100
1（ファースト）	0 ～ 60

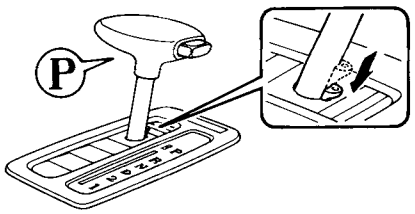
・エンジンを回転させすぎないため❷及び❶のセレクトレバーの操作は左表の速度範囲内で使用してください。

シフトロック

キースイッチをON位置にしブレーキペダルを踏んでいないと、安全のためセレクトレバーが固定され、❾からのシフト操作はできません。これをシフトロックといいます。発進するときは必ずブレーキペダルを踏んだ状態で、セレクトレバーを操作してください。

シフトロック解除ノブ

バッテリーあがりなどの原因でブレーキペダルを踏んだ状態で、セレクトレバーが操作できないときは、セレクトレバー前のシフトロック解除ノブを押しながらセレクトレバーを操作してください。

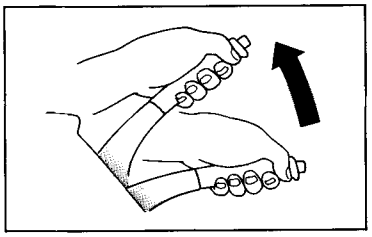


運転のしかた

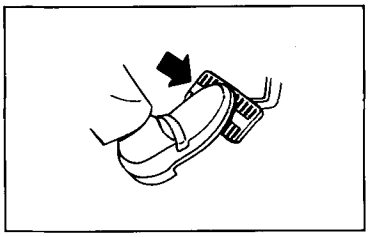
運転席にすわったら正しいドライビングポジションで運転するためにシート位置を調節し、シートベルトを正しく装着してください。※シート・シートベルトの使い方/P.45

■エンジンの始動

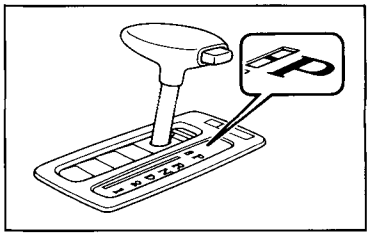
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。



2 ブレーキペダルを右足でしっかり踏みます。



3 セレクトレバーがⓅにあることを確認し、始動します。



注　意

- アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いを防ぐため右足で各々のペダルを踏みその位置を確認し、右足におぼえさせてください。
- 確実なブレーキ操作をするために右足でブレーキ操作をしてください。馴れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れる恐れがあります。
- エンジンの始動はⓃでもできますが、安全のためタイヤが固定されるⓅで始動してください。
- エンジン始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、エンジン始動後右足でブレーキペダルに踏みかえてください。
- セレクトレバーボタンを押したままエンジンを始動すると、シフトロックが作動しないことがあります。セレクトレバーボタンを押さずに始動してください。

※エンジンのかけ方/P.24

知識

- セレクトレバーⓅは、トランスミッション内のギヤがかみあいタイヤが固定されます。
- キースイッチ ON 位置でセレクトレバーⓅのとき、ブレーキペダルを踏んだり、離したりしたときや、キースイッチを ON 位置から 1（OFF）位置にするとセレクトレバーから〝カチッ〟と音が聞こえることがあります。これはシフトロックが働いているためで、異常ではありません。

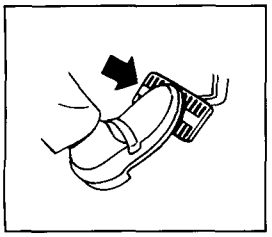
■発　進

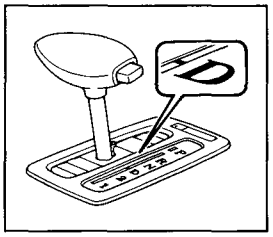
1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏みます。

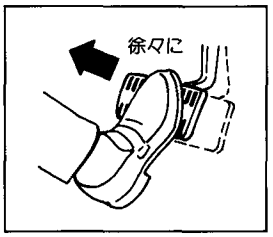
2 セレクトレバーをⒹ（後退はⓇ）に入れ、レバー位置を目で確認します。

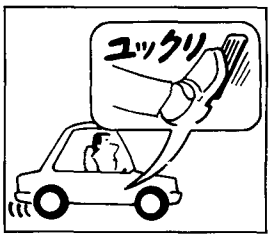
3 パーキングブレーキを解除してブレーキペダルを徐々に離します。

4 アクセルペダルをゆっくり踏み静かに発進します。









急登坂時の発進

- パーキングブレーキを解除する前にブレーキペダルを徐々に離します。
- アクセルペダルをゆっくり踏み車が動く感触を確認してから、パーキングブレーキを解除して、ゆっくり発進します。

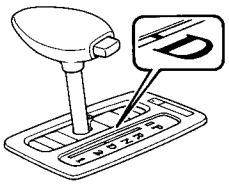
注　意

- セレクトレバーをⓇ、Ⓓ、❷、❶に入れるとアクセルペダルを踏まなくてもクリープ現象で車が動き出します。セレクトレバーを操作するときはブレーキペダルを踏んでください。特に暖機運転時やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなりますのでブレーキペダルをしっかり踏んでください。
- アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し思わぬ事故の原因になります。
- 車を少しでも移動させるときは正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダル、アクセルペダルがしっかり踏めるようにしてください。
- 後退時は身体を後ろにひねった姿勢となることがありますが、ブレーキペダルが確実に踏めるようにしてください。

知識

- マニュアルトランスミッション車では発進時のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行います。アクセル操作はゆっくり行ってください。
- セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、シフトロックが解除しないことがあります。ブレーキペダルを踏んだ後にセレクトレバーボタンを押してレバーを操作してください。

■走　　行



●平坦路を走行するときは

通常Ⓓにします。車速により自動的にギヤが切り変わります。

追越しなどで急加速したいときは

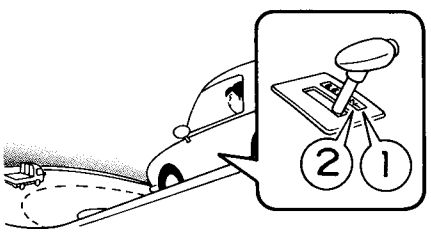
・アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと車速によりⒹのままでも自動的にギヤが切り変わり急加速します。これを**キックダウン**といいます。

注　意

・走行中はセレクトレバーをⓃに入れないでください。エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故の原因になります。またトランスミッションが故障する原因にもなります。

知識

・上り坂などで車速を保つためアクセルペダルを踏み込んでいくとキックダウンしてエンジン回転が上がる場合があります。



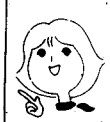
●坂道を下るときは

勾配に応じてブレーキペダルを踏んで減速し、❷又は❶に入れエンジンブレーキを使用します。

注　意

・下り坂で車速調節をブレーキペダルだけにたよって踏み続けるとブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。エンジンブレーキを併用してください。

・滑りやすい路面では❶に入れないでください。強いエンジンブレーキでタイヤがスリップして危険です。

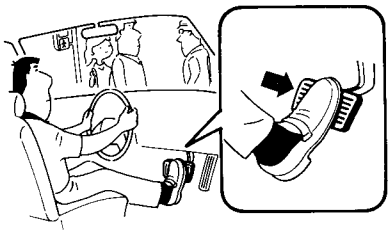


知識

・**エンジンブレーキ**とは、走行中にアクセルペダルから足を離したとき、車のスピードをおさえようとするブレーキ力です。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

・車速が速いときはⒹから❶に入れても、一旦２速ギヤになり車速が落ちてから１速ギヤになります。

■一時停止



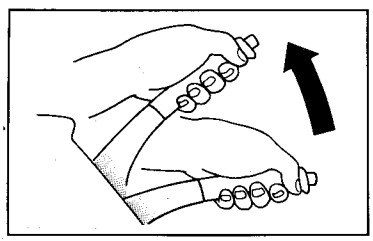
ブレーキペダルをしっかり踏み続け、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
また、渋滞などで停止時間が長びきそうなときは、セレクトレバーをⓃにしてブレーキペダルとパーキングブレーキを併用してください。停止後の発進は、セレクトレバーの位置を目で確認し、ゆっくりスタートしてください。

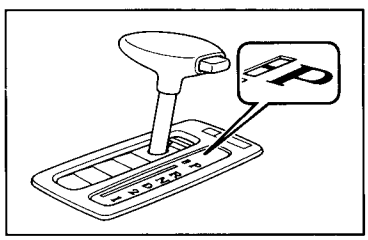
注　意

- 上り坂で停車したときにブレーキペダルを離すと車が後退することがあります。ブレーキペダルをしっかり踏んでパーキングブレーキをかけてください。
- アクセルペダルを踏んだままで停止状態を保つことはしないでください。トランスミッションが故障する原因となります。
- 駐・停車中の空ぶかしはしないでください。セレクトレバーがⓅ、Ⓝ以外にはいっていると急発進し危険です。
- 停車中に車から離れる時は、エンジンを停止してください。セレクトレバーがⓅ、Ⓝ以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗車時にあやまってアクセルペダルを踏んだとき急発進し危険です。
  特にエアコン作動中は、エンジン回転が高く、車が動き出す力が強くなります。

■駐　　車

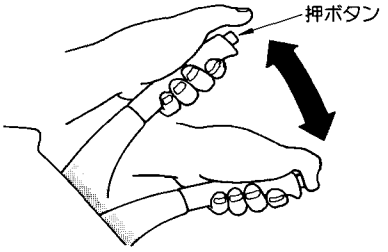
車を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけセレクトレバーをⓅに入れ、目で確認してください。車から離れるときは、エンジンを停止します。





セレクトレバーボタンが戻っていることを確認します。

パーキング（駐車）ブレーキ



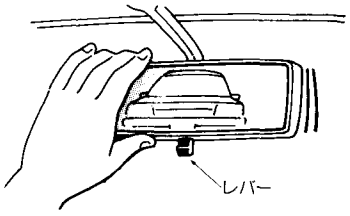
ボタンを押さずにレバーをいっぱい引くとブレーキがかかります。
ブレーキを解除するときはレバーを少し持ちあげ気味にしてボタンを押して戻します。

注　意
・パーキングブレーキをかけたまま（ブレーキ警告灯点灯時）走行するとブレーキが加熱し、ブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

バック ミラー（後写鏡）

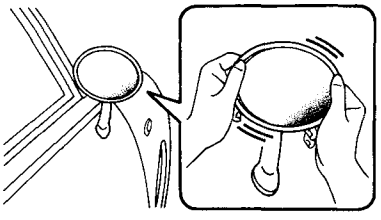
走行する前に、後方及び側方の状況が十分に確認できる位置にミラーを調節してください。

ルームミラー



●角度調節
ミラー本体を動かし、後方視界が十分確認できる位置に調節します。
夜間、後続車のヘッドライトがまぶしいとき、レバーを手前に引くとライトの反射が弱くなりまぶしさを防ぐことができます。

ドアミラー



●角度調節
ミラーの外枠を両手で持ち、ミラー本体を傾けて調節します。
ガラス面を強く押すと割れる恐れがあります。

知識

ドアミラーの特徴と一般的注意
・目の移動量が大きくなります。前方不注意とならないよう気をつけてください。
・後続車が同じ距離でもフェンダーミラーにくらべ、像は大きく見えます。距離に対する感覚がなれるまで十分注意してください。
・車幅の感覚が変化します。
ミラーの張出量がフェンダーミラーに比較して片側10cm 位大きくなります。
狭い道でのすれちがいや車庫に入れるとき、あるいは歩行者に気を配りながら運転してください。

ドア等開閉装置の使い方

ドア 36

車外からの施錠・解錠……36

車内からの施錠・解錠……36

ウインドーガラス 36

パワーウインドー……36

運転席パワーウインドースイッチ……37

助手席パワーウインドースイッチ……37

エンジンフード 38

フューエルフィラーリッド(燃料補給口) 38

トランク 39

幌 40

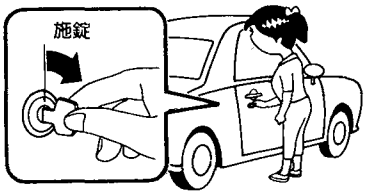
幌の開閉……41

ドア

注　意

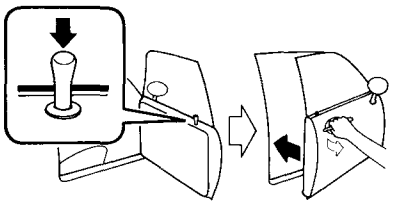
- ドアを開けるときは、前後の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車などにぶつかる恐れがあり危険です。風が強いときなどは特に注意してください。
- ドアが完全に閉っていない状態(半ドア)では、走行中ドアが開く恐れがあります。ドアは確実に閉め施錠してください。
- 車から離れるときは、盗難や思わぬ事故を防止するためドア ロックは確実に行ってください。

車外からの施錠・解錠



●キーによる施錠・解錠

キーを差し込み、前に回すと施錠し、後ろに回すと解錠します。



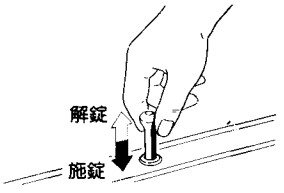
●キーを使わない施錠（キーレスロック）

ロックノブを押し込みドアハンドルを引いたままドアを閉めると施錠します。

注　意

- キーを使わないで施錠するときは、キーを室内に忘れないようにしてください。

車内からの施錠・解錠



ドアを閉めた状態で、ロックノブを押し込むと施錠し、上に引くと解錠します。

ウインドーガラス

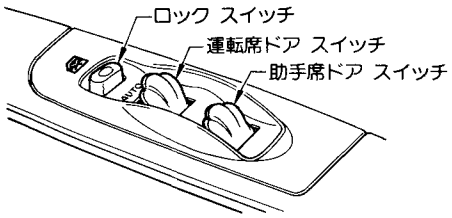
パワーウインドー

キースイッチが ON 位置のとき、スイッチの操作でドアウインドーガラスの開閉ができます。また、開閉をロックすることもできます。

注　意

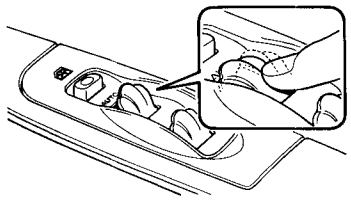
- スイッチを操作するときは、首や手などを、はさまないように注意してください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン回転中に開閉してください。

■運転席パワーウインドースイッチ

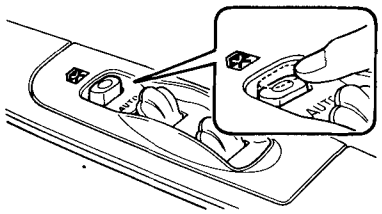


各スイッチを引くと閉じ、押すと開き、手を離すと停止します。

ワンタッチ開閉（運転席ドアガラス）



・運転席ドアスイッチを強く引いて手を離すと全閉し、強く押して手を離すと全開します。途中で止めたいときは、運転席ドアスイッチを押した側の反対側に一瞬だけ押します。



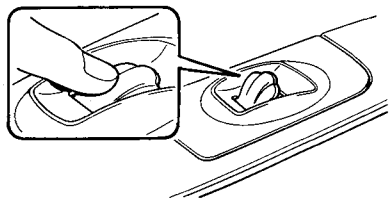
●パワーウインドーロックスイッチ

ロックスイッチを押し込むと助手席パワーウインドーガラスの開閉はできなくなります。
開閉するときはスイッチを押し戻します。

注　意

・お子さまがパワーウインドースイッチをいたずらして、手や首などをはさむと危険です。お子さまを乗せているときは、必ずロックスイッチを押し込んでください。

■助手席パワーウインドースイッチ



スイッチを引くと閉じ、押すと開き、手を離すと停止します。

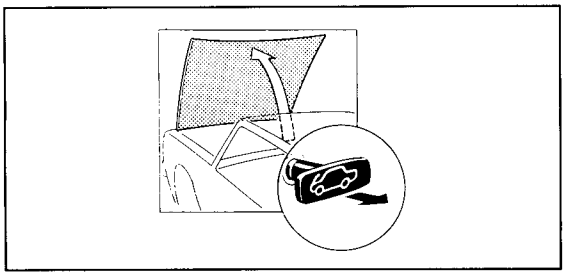
知識

・運転席側のロックスイッチが押し込まれていると作動しません。

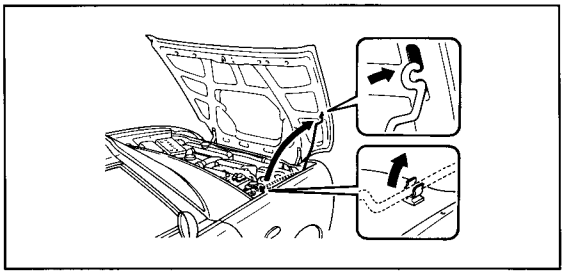
エンジン フード

●開けるとき

1 メーター右下部のオープナーを引くと、ロックが外れフードが少し浮き上がります。



2 フードを持ち上げ、フードステー（支持棒）をフックから外し、フードの穴に差し込みます。



●閉めるとき

フードを支えながらステーを外し、フックに固定してからフードをゆっくりおろし、"カチッ"という音がするまで押し付けてロックします。

注　意

・フードのロックは走行前に必ず確認してください。完全にロックされないまま走ると開くことがあり非常に危険です。

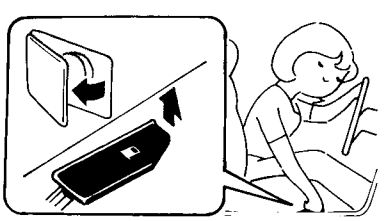
フューエル フィラー リッド（燃料補給口）

注　意

・燃料を入れるときは、たばこ、ライター、マッチなど一切の火気は厳禁です。また、エンジンも止めてください。

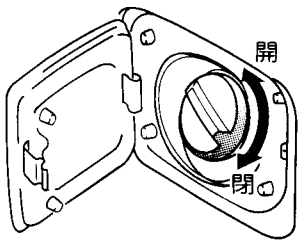
・燃料は無鉛ガソリンを補給してください。

■フューエルフィラーリッド



開けるときは、オープナーを引きます。
閉めるときはフューエルフィラーリッドを手で押し付けてロックします。

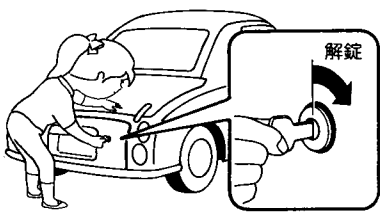
■フューエルフィラーキャップ



キャップを回して開閉します。
燃料補給後は〝カチッ、カチッ〟と2回以上音がしてキャップがから回りするまで閉めてください。
燃料タンクの容量は約40ℓです。

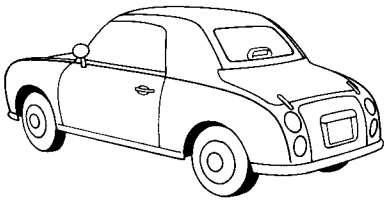
注　意
・キャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。

トランク

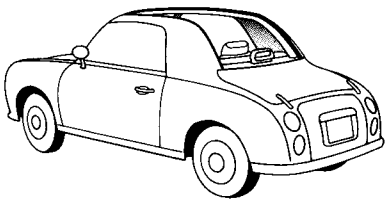


マスターキーをキー穴に差し込み、右に回すと解錠し、開きます。トランクリッドの右側にあるステー（支持棒）をフックから外し、トランク開口部の穴に差し込みます。
閉めるときはステーを外し、トランクリッドを手で押し付けてロックします。

幌



〈通　常〉



〈開いた状態〉

注　意

・走行中や交差点などで一時停止しているときに、車外へ頭や手、物などを出さないように注意してください。
また、幌が開いた状態で走行中、立つと車外に放り出される恐れがあります。絶対に立ったりしないでください。
特にお子さまには気をつけてください。

・ルーフ上やルーフ開口部の縁に腰をかけたり、大きな力を加えないでください。

・車から離れるときや洗車の際は、幌が完全に閉っていることを確認してください。
・幌の開閉操作は周囲の安全を確認のうえ、リンクに指などをはさまないよう注意してください。
また開閉中は、黄色いリンクには触れないでください。

警報ブザー

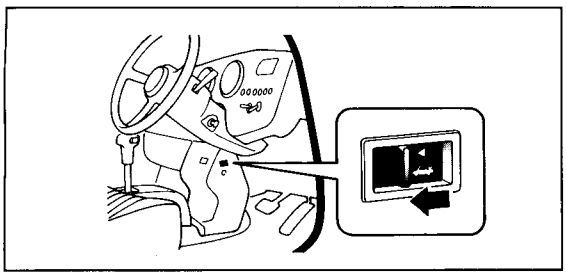
・幌格納リッドは確実に閉めてください。リッドが開いていたり、幌用ロックが解除（アンロック状態）されたまま走行すると、警報ブザーが鳴ります。

幌の開閉

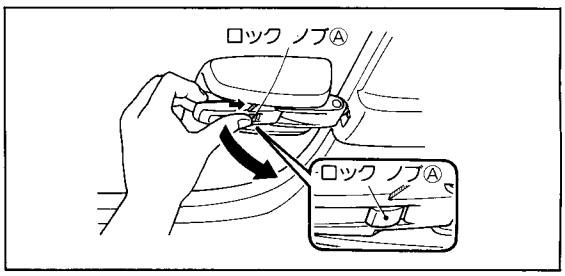
幌の開閉はエンジンを停止し、セレクトレバーをⓅ又はⓃにしてから行ってください。

■開けるとき

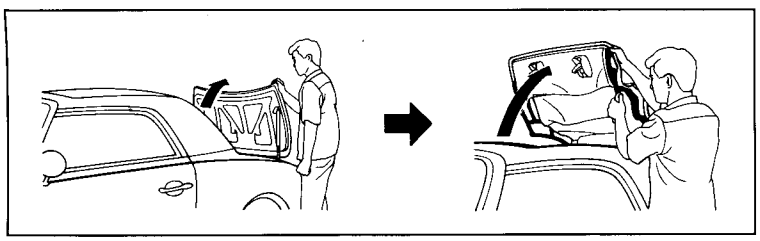
1 幌格納リッドのオープナースイッチを左に押します。



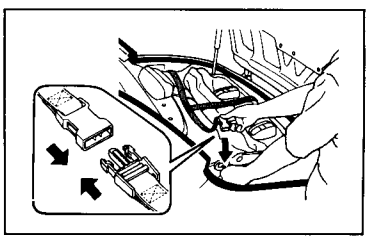
2 ロックノブⒶを車両前方へ押し、幌固定用ロックを解除（アンロック状態）します。



3 車外へ出て、幌格納用リッドを一番後ろまで開き、ハンドルを持って幌を格納します。

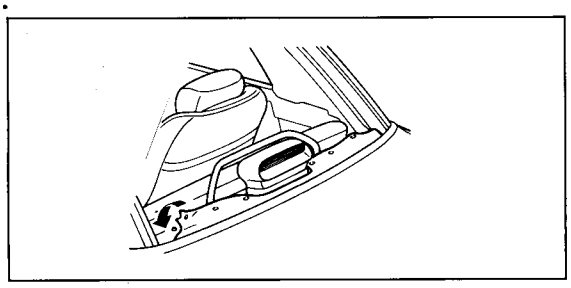


4 幌を手で、おさえながらバンドで確実に固定します。

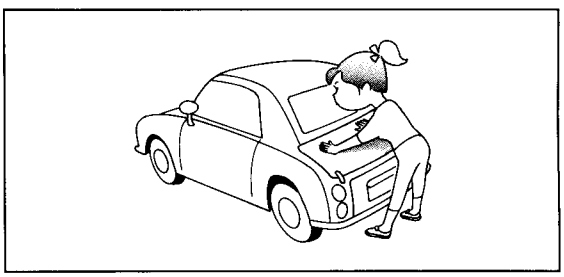


リンクに指などを、はさまないよう注意してください。黄色いリンク部には手を触れないでください。

5 幌カバーを幌格納リッド裏面にホックで固定します。



6 幌格納リッドを閉めます。



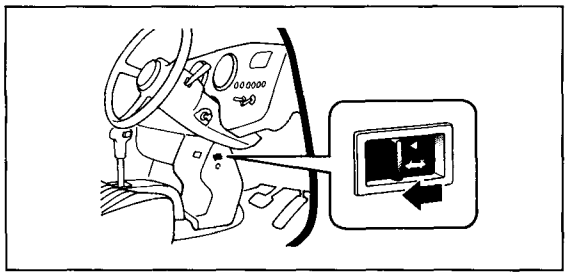
幌格納リッドの両端を上から、おさえつけるように閉めてください。

注　意

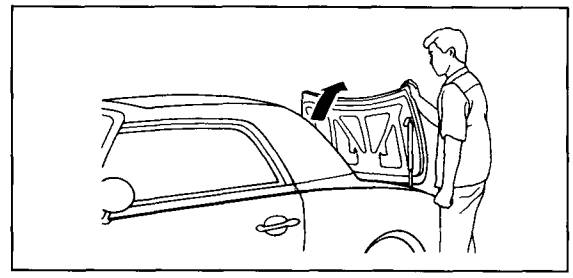
・バンドでの固定が不十分なまま走行すると、リッド裏面と幌が干渉し、幌表皮を傷付ける恐れがあります。

■閉じるとき

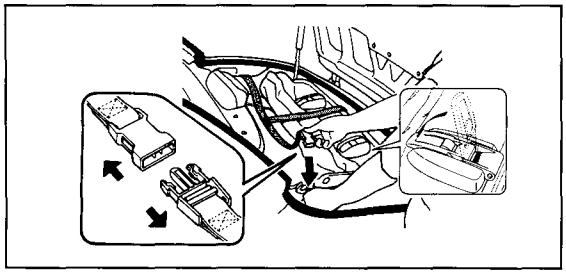
1 幌格納リッドのオープナースイッチを左に押します。



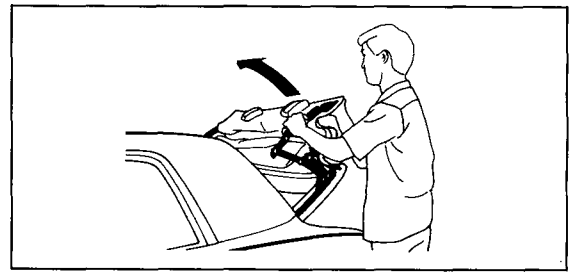
2 車外に出て、リヤパーセル側の幌カバーを外し、幌格納リッドを一番後まで開きます。



3 固定バンドを外し、ロックノブを寝かせておきます。

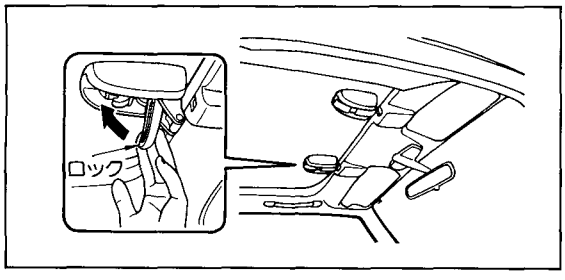


4 ハンドルを持って幌を閉じます。

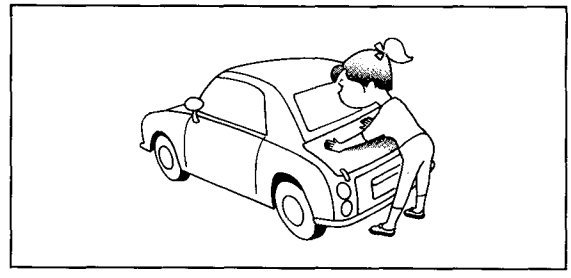


同乗者に注意してリンクに指などをはさまないように操作してください。

5 室内に入り、幌用ロックをかけます。

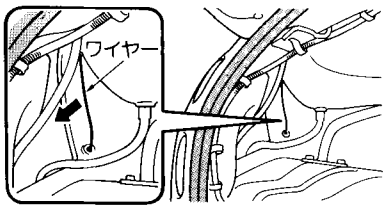


6 幌格納リッドを確実に閉めます。



幌格納リッドの両端を上から、おさえつけるように閉めてください。

■オープナーが使えない場合の幌格納リッドの開け方



バッテリーあがりなどの原因で幌格納リッドオープナーが使えない場合は、トランク内の左右のワイヤーを手前に引いて幌格納リッドのロックを解錠し、開きます。

幌の取り扱い

洗車やお手入れの方法を誤ると劣化の原因となります。次の点に注意してください。

●洗車のしかた

・自動洗車機や高圧洗車機は使わないでください。
・幌とルーフサイドの合わせ目にホースなどで直接、水をかけないでください。室内に水が侵入することがあります。

●お手入れのしかた

・汚れは軟らかいブラシ、スポンジ、セーム皮などを使い、水で落してください。
・ワックスは日産純正のレザーワックス（水性）を使用してください。
・お手入れは定期的に行い、汚れたまま長時間放置しないでください。
・汚れのひどい場合は中性洗剤又は日産純正のボディーシャンプーなどを使いガソリン、シンナー、アルコールなどは使わないでください。

●保管のしかた

・台風や大雨のとき、又は長期間屋外に放置する場合は、ボディーカバーをかけてください。
・幌を長時間、格納しておくと、しわの原因となりますので長期間、車を保管される場合は、必ず幌を閉じておいてください。

●幌格納部について

・幌格納部は幌を格納するためのものです。
荷物入れとして使わないでください。

MEMO

シート・シートベルトの使い方

シート 46

フロントシート ……46

リヤシート ……47

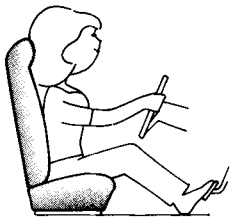
ヘッドレスト ……47

シートベルトの装着 48

ELR(緊急固定)付3点式シートベルト ……48

シート

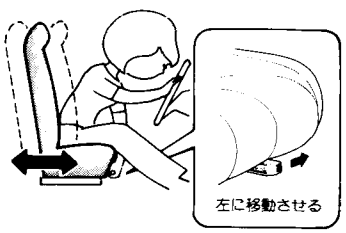
フロントシート



正しいドライビングポジション（ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が容易で、各メーター類が見やすい位置）で運転するために、運転席の位置を調節します。

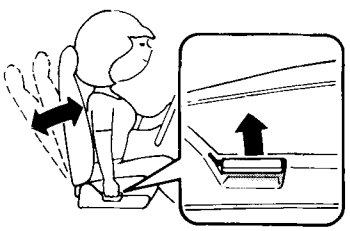
注　意

- シートの調節は走行前に行ってください。調節後はシートを少しゆさぶり、確実に固定しているか確認してください。
- リクライニングの調節は、おとなが行いましょう。お子さまが操作されますと思わぬ事故を起こす恐れがあります。
- 走行中のシート調節は危険ですので行わないでください。加減速時などの反動により体の安定を失うことがあります。
- シートバックの角度は、シートベルトが身体から浮かない状態に調節してください。



●前後調節

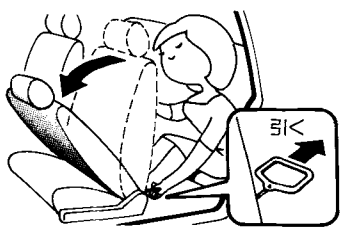
レバーを左に押しながらシートクッションを前後に動かし、調節します。
レバーから手を離したところで固定します。



●リクライニングの調節

レバーを上方に引き、からだ全体でシートバックを倒して調節します。
レバーから手を離したところで固定します。レバーを上方に引き、体を起せば自動的に前方に戻ります。

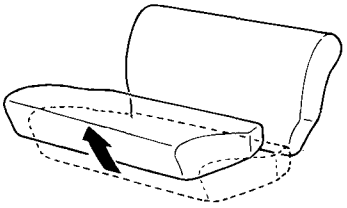
助手席シートバック前倒れレバー



助手席シートの左後下にあるレバーを引くとシートバックが前へ倒れ、後席への乗り降りが楽になります。
元に戻すときは、シートバックを起します。

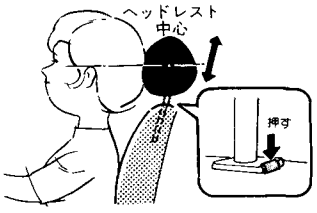
リヤシート

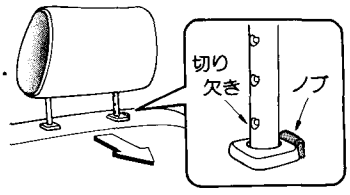
リヤシートクッションの外し方



・シートクッションの前側を持ち上げるようにするとシートクッションを簡単に取り外すことができます。
・取り付けるときは、シートクッションを上から押さえつけて確実に固定させます。
シートカバーの脱着などに便利です。

ヘッドレスト





●上下調節
ヘッドレストの中央が耳の上端付近になるように高さを調節します。
上げるときはそのまま引き上げ、下げるときはヘッドレスト付根のボタンを押しながら下げます。
ボタンを押していっぱいに引き上げると、ヘッドレストを外すことができます。

●取り付け
ヘッドレストは前後の向きを確認して、正しく取り付けてください。
逆向きに取り付けると固定されず、抜けてしまうことがあります。

注　意
・正しい位置で使用しないと、ヘッドレストの機能が発揮できないことがあります。
・ヘッドレストを一旦取り外し、再び取り付けた場合は、ヘッドレストを持ち上げて抜け出さないことを確認してください。

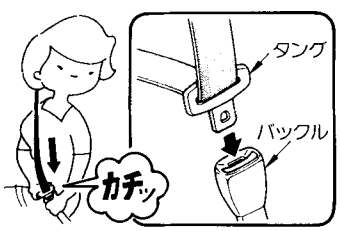
シートベルトの装着

走行する前に、運転者は正しいドライビングポジションで必ずシートベルトを装着してください。
また、助手席者も必ずベルトを装着し、他の同乗者にもベルトの装着を勧めてください。

注　意

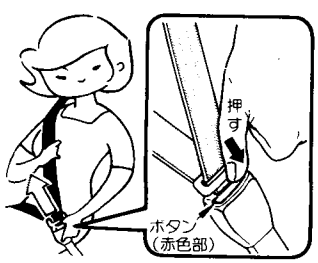
- ベルト部分に傷がついたり、破れたりしていると、万一のときにシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
- フロントシートベルトの肩ベルトが首や顔に当たるお子さまなどは、後席にすわり、リヤシートベルトを使用してください。なお乳幼児（4か月～4才ぐらい）には、チャイルドセーフティシート（別売）を、子供（4才～12才ぐらい）にはジュニアセーフティシート（別売）の使用をおすすめします。
- ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- 腰部ベルトは腰骨の位置にぴったりと装着してください。腹の位置に掛けると万一のとき身体にくい込み危険です。
- 肩ベルトは身体から浮かない状態に調節してください。
- 妊娠中のかたや疾患のあるかたは、万一の場合、腹部などに圧迫を受けることがありますので、医師に相談の上、使用してください。

ELR(緊急固定)付3点式シートベルト



●締めるとき

タングをつかんでベルトをゆっくり引き出し、バックルに〝カチッ〟と音がするまで差し込みます。この際ベルトがねじれていないことや、シート調節レバーなどに引っかかっていないことを確認します。



●外すとき

バックルボタンを押してタングを外し、ベルトを手に持ちながら巻き取らせます。

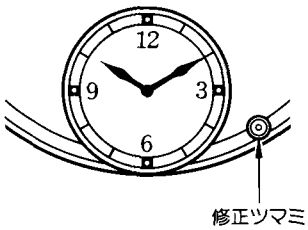
知識

- ELR(緊急固定)付シートベルトは伸び縮みが自由ですが、ベルトを急激に引き出したり、車両に減速度が加わると自動的にロックします。ベルトはゆっくり引き出してください。

室内装備品の使い方

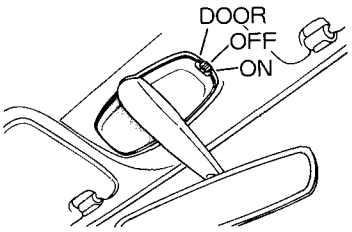
指針時計 ……50
ルームランプ ……50
サンバイザー ……50
灰　皿……50
電源取出口 ……51
グローブボックス ……51
センターコンソール ……51

指針時計



修正ツマミを引きながら回し、指針を合わせます。

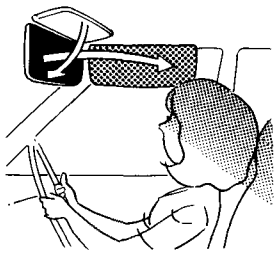
ルームランプ



スイッチノブで3段階に切り換えできます。

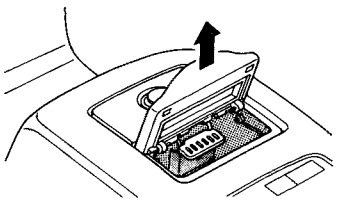
ON　：常時点灯
OFF　：常時消灯
DOOR：ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

サンバイザー



直射日光がまぶしいときに使用します。取付部は回転式ですので側面の光線も防げます。

灰　皿

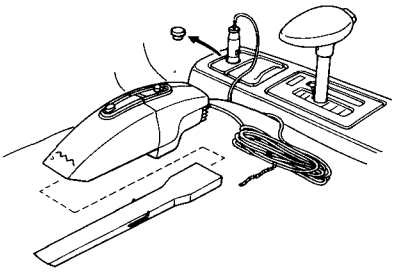


清掃するときはカバーを持ち、そのまま引き上げて抜きます。

注　意

- 吸いがらを灰皿に捨てるときは、火が消えていることを確認してください。
- 灰皿使用後は、必ず閉めてください。
- 吸いがらのたまった灰皿を開いたまま放置しますと、煙草の吸いがらに燃え広がる恐れがあります。

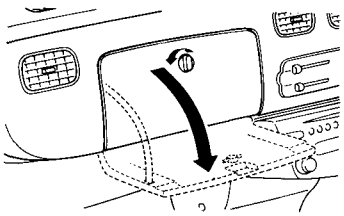
電源取出口



日産純正の電気製品（別売）の電源を取り出すときに使うことができます。

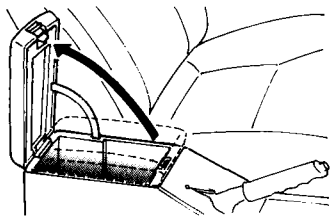
注　意
・日産純正品以外の電源は取り出さないでください。

グローブボックス



小物入れにお使いください。
ツマミを回すと開きます。閉めるときはリッドを手で前方へ押しつけます。

センターコンソール



フタを引き上げると開き、フタを閉じるとロックします。

MEMO

ヒーター・エアコンの使い方

吹出口 54

ヒーター 55

コントロールパネル……55

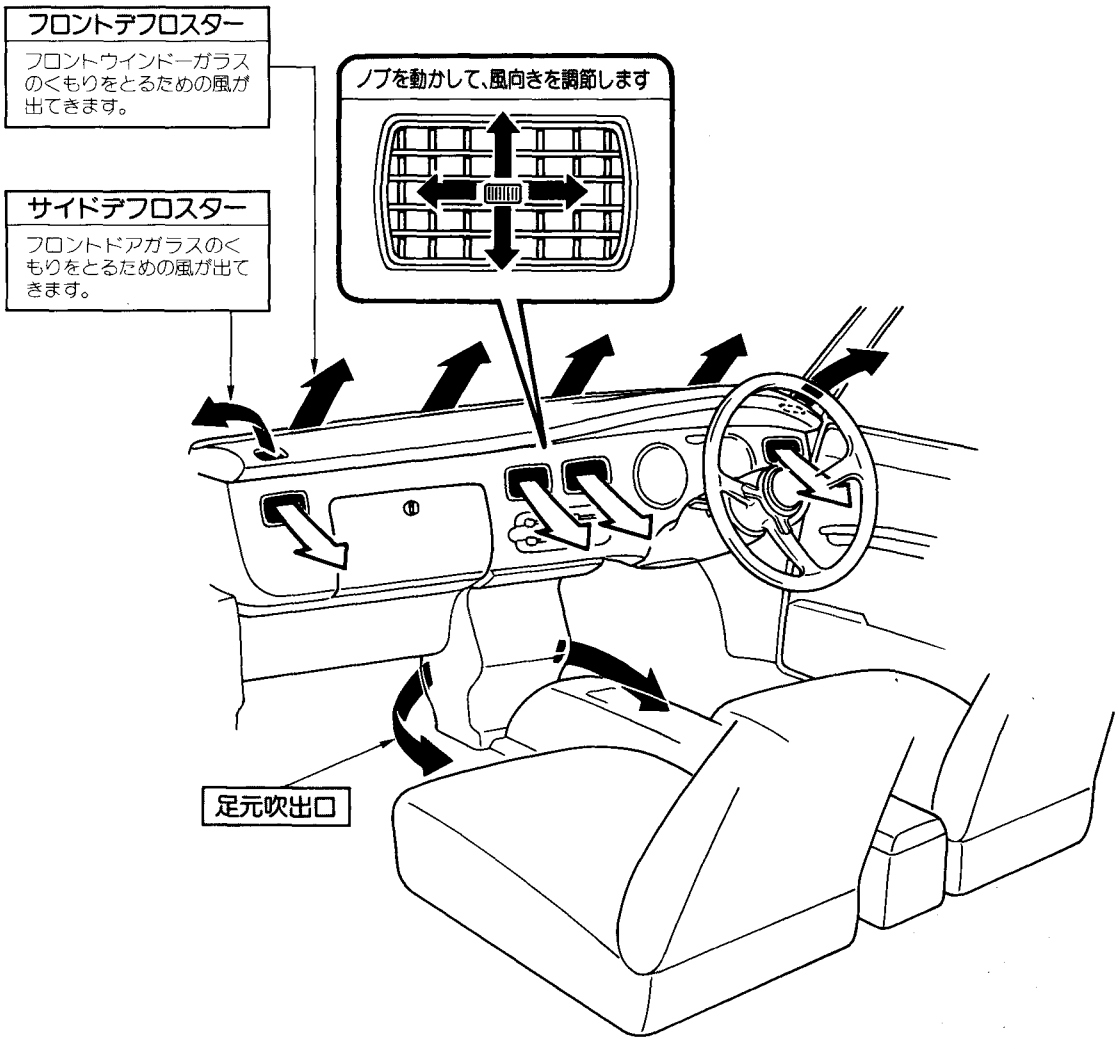
ヒーターの使い方……56

エアコン 57

コントロールパネル……57

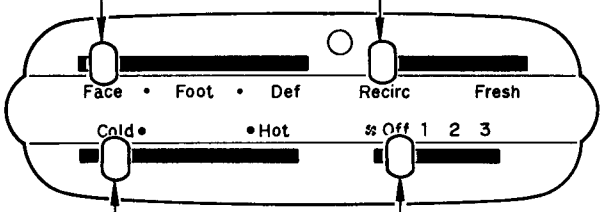
エアコンの使い方……58

吹出口


フロントデフロスター
フロントウインドーガラスのくもりをとるための風が出てきます。
サイドデフロスター
フロントドアガラスのくもりをとるための風が出てきます。
ノブを動かして、風向きを調節します
足元吹出口

ヒーター

コントロールパネル



内外気切換レバー

吸込口の切換えができます。

Recirc ・吸込口を内気循環にします。

Fresh ・吸込口を外気導入にします。通常は外気導入で使用してください。

温度調節レバー

吹出風の温度をCOLD(内外気風)からHOT(温風)まで無段階に調節できます。

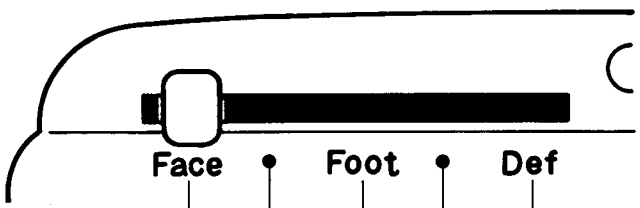
ファンレバー

吹出風量を調節できます。

・0：ファン停止

・1（風量小）～3（風量大）

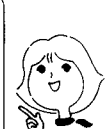
吹出口切換レバー



- Def：吹出口をデフロスターに固定します。
- Foot・Def：吹出口をデフロスターと足元に固定します。
- Foot：吹出口を足元に固定します。
- Face・Foot：吹出口を上半身及び足元に固定します。
- Face：吹出口を上半身に固定します。

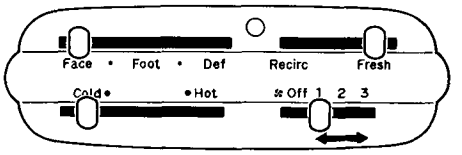
注 意

・内気循環の状態で長時間使用すると窓ガラスのくもりや車内空気の汚れの原因となります。排気ガスやほこりなどの侵入を避けたいときなど、一時的に使用してください。



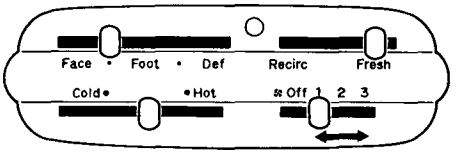
■ヒーターの使い方

エンジンを始動した後に使用してください。



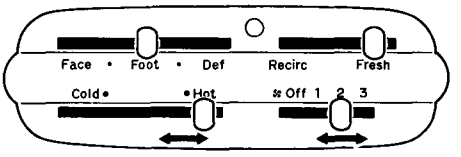
●換気したいとき

新鮮な外気を導入したいときに使用します。



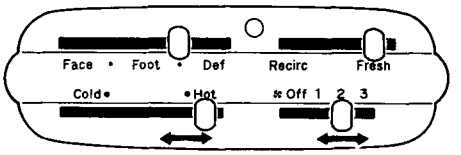
●暖房と換気を併用したいとき

上半身と足元に風を出したいときに使用します。
温度調節レバーはCOLD～HOTの中間位置にしてください。



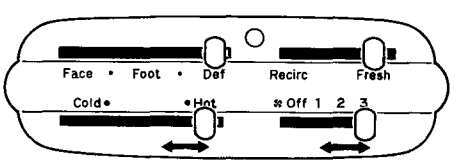
●暖房したいとき

水温計が動き出すところを目安に使用してください。
吸込口を内気循環にすると早く暖まりますが、窓ガラスのくもりや、車内空気のよごれの原因になりますので、一時的に使用し、車内が暖まってきたら外気導入に戻してください。



●暖房とくもり取りを併用したいとき

ウインドーガラスのくもりをおさえ、足元に温風を出したいときに使用します。

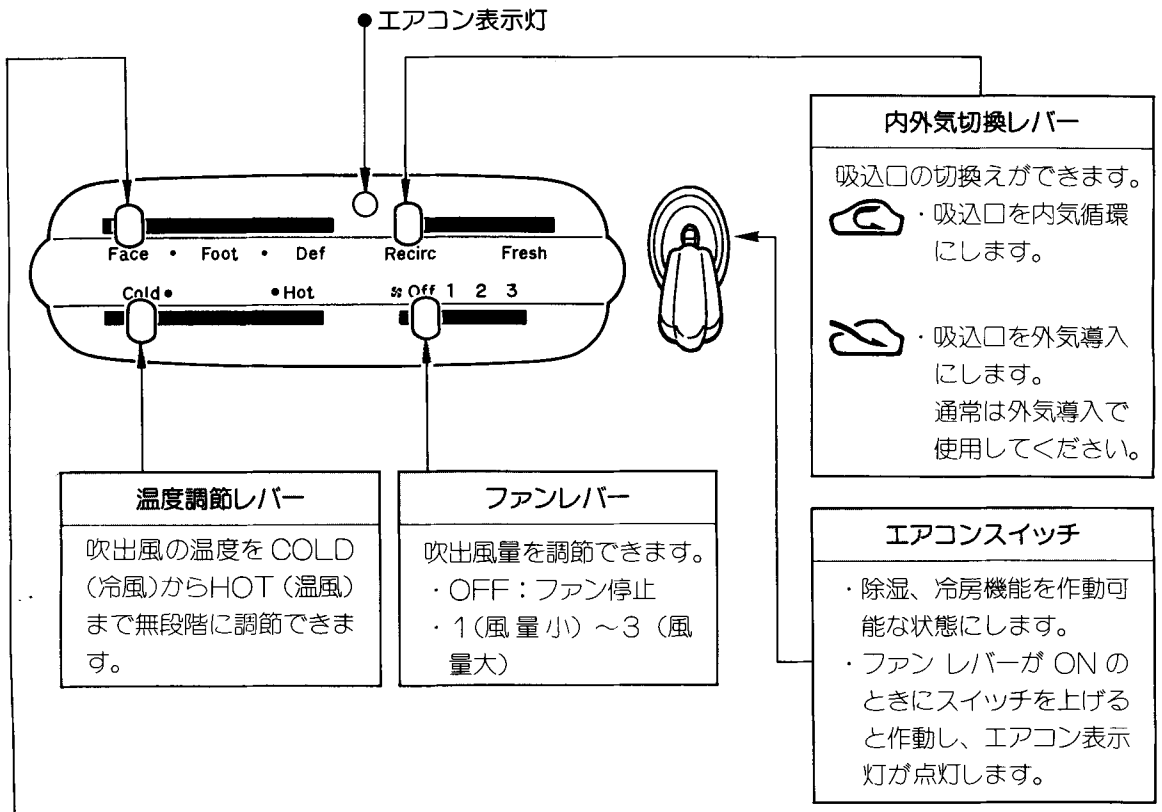


●くもりを取りたいとき

ウインドーガラスのくもりを取り除きたいときに使用します。
吸込口は必ず外気導入にしてください。
ファンレバーを3(風量大)に、温度調節レバーをHOTにするとくもりが取れやすくなります。

エアコン〈デイーラーオプション〉

コントロールパネル



内外気切換レバー

吸込口の切換えができます。

・吸込口を内気循環にします。

・吸込口を外気導入にします。
通常は外気導入で使用してください。

温度調節レバー

吹出風の温度をCOLD（冷風）からHOT（温風）まで無段階に調節できます。

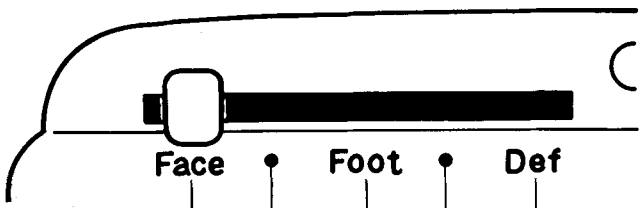
ファンレバー

吹出風量を調節できます。
・OFF：ファン停止
・1（風量小）～3（風量大）

エアコンスイッチ

・除湿、冷房機能を作動可能な状態にします。
・ファンレバーがONのときにスイッチを上げると作動し、エアコン表示灯が点灯します。

吹出口切換レバー



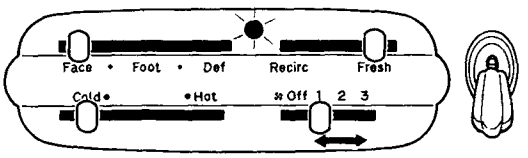
- Def：吹出口をデフロスターに固定します。
- Foot・Def：吹出口をデフロスター及び足元に固定します。
- Foot：吹出口を足元に固定します。
- Face・Foot：吹出口を上半身及び足元に固定します。
- Face：吹出口を上半身に固定します。

注　意

・内気循環の位置で長時間使用すると窓ガラスのくもりや車内空気の汚れの原因となります。排気ガスやほこりなどの侵入を避けたいとき、急速に冷房したいときなど、一時的に使用してください。

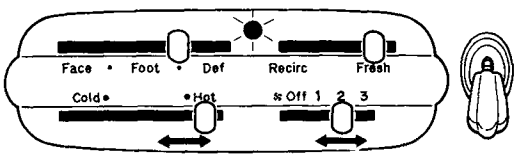
■エアコンの使い方

エンジンを始動した後に使用してください。



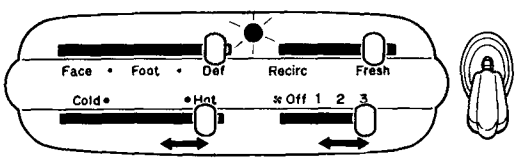
●冷房したいとき

炎天下に駐車したときなど、車内に熱気があるときは、一旦窓ガラスを開けて外気に入れ換えると早く冷えます。外気温度が高い場合は吸込口を内気循環にすると早く冷えますが、車内空気の汚れの原因になりますので、ときどき外気導入にしてください。



●暖房とくもり取りを併用したいとき

ウインドーガラスのくもりをおさえ、足元に温風を出したいときに使用します。
梅雨期など外気温が低く、湿度が高いときに有効です。
吸込口は必ず外気導入にしてください。



●くもりを取りたいとき

ウインドーガラスのくもりを取り除きたいときに使用します。
吸込口は必ず外気導入にしてください。
吹き出す風が除湿されていますのでくもり取りに有効です。

注 意

- ウインドーガラスのくもり取りとして使用するときは、温度調節レバーをCOLD側にしないでください。ウインドーガラスの外側に露（くもり）が付き、視界が悪くなることがあります。
- エアコンを長期間使用しているとベルトのゆるみや冷媒ガスの消耗などにより冷えが悪くなることがあります。冷えが悪いときは、日産販売会社で点検を受けてください。

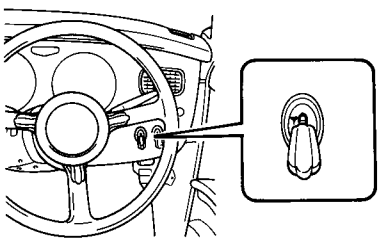
知識

- エアコンスイッチをONにすると吹き出す風が除湿されますので快適な暖房や、湿度が高いときのくもり防止に有効です。
- 冷房時、吹出口から霧が吹き出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷されたときに発生するもので、異常ではありません。
- クーラーシステムが作動しているとき、エンジンのアイドル回転が少し高くなります。
- 外気温度が低い（約0℃以下）ときは、クーラーシステムが作動しない場合があります。
- エアコンスイッチをOFFにするとヒーターとして使用できます※ヒーターの使い方／P.56

アンテナの取り扱い

オーディオ（ディーラーオプション）の取り扱いについては、オーディオ本体に付いている「取扱要領」をご覧ください。

アンテナ



キースイッチが ACC 又は ON 位置のとき、スイッチを上げるとアンテナが伸び手を離すと止まります。
アンテナを下げるときは、スイッチを下げます。完全に下ったら手を離します。

注　意

- アンテナを作動させるときはアンテナ付近に人がいないことを確かめてください。
- 屋根の低い車庫内などで、アンテナが伸びていると、破損する恐れがあります。

MEMO

寒冷時の取り扱い

寒冷時の全般的な取り扱い 62

タイヤチェーン 64

取り付け方 ……64

取り外し方 ……65

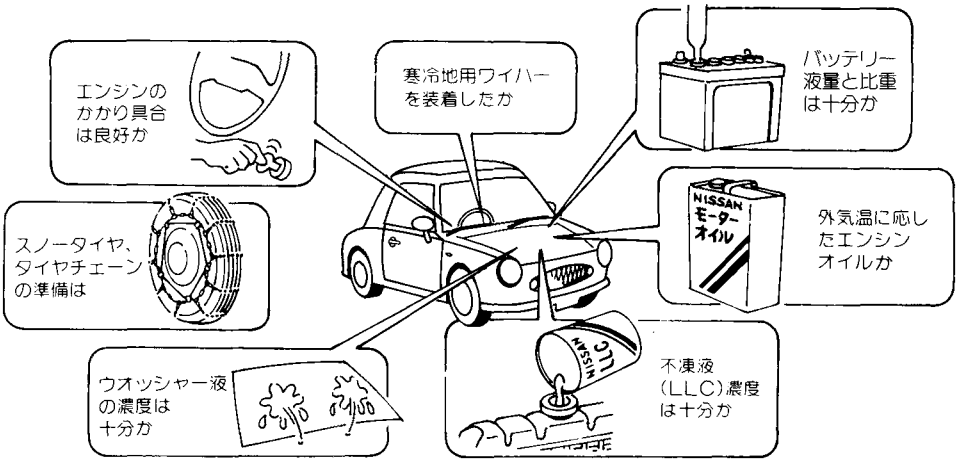
寒冷時でのエンジンのかけ方 65

ワイパー 66

寒冷地用ワイパーブレードの交換 ……66

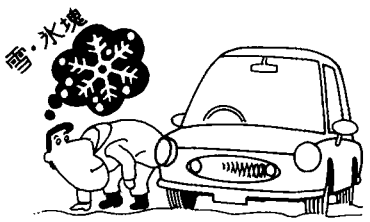
寒冷時の全般的な取り扱い

シーズン前には点検を



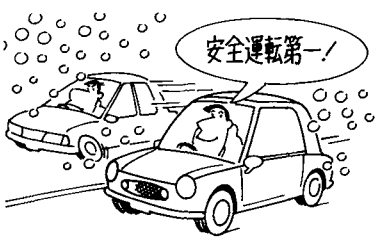
- 冷却水の不凍液濃度を点検してください……86ページ参照
  （日産純正ロングライフクーラントの濃度を50%にします）
- ウオッシャー液の濃度を点検してください……88ページ参照
  （ウオッシャー液の濃度を50%以上にします。）
- エンジンオイルの粘度は外気温に応じて使いわけてください……85ページ参照
- バッテリー液の量を点検してください……89ページ参照
- 寒冷地では冬になる前に燃料タンクの水分を除くことをお奨めします。水分除去剤には日産純正ズームパワーアイスプルーフ（ガソリン）を使用してください。
- ワイパーブレードは凍結防止用の日産純正ワイパーブレードを装着してください。

■走行前に凍結確認を



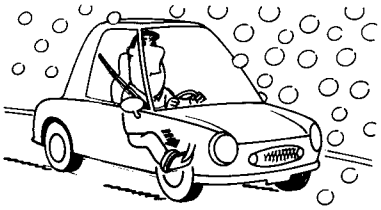
ドアや下回りの凍結がないか点検しましょう。
ドアの凍結は無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれます。氷を溶かしてから開けましょう。
ブレーキホースやフェンダー裏側などに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう取り除きましょう。
アクセル、ブレーキペダル、パーキングブレーキの作動や効き具合が円滑かどうか確認しましょう。

■走行は安全運転最優先に



急加速、急ブレーキ、急ハンドルは危険です。ゆとりある運転をしましょう。
乗車時は靴についた雪などをよく落してください。ペダル類が滑り危険です。
万一のことを考え、燃料はいつも十分入れておきましょう。

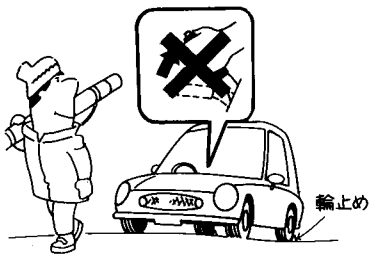
■雪道を走行するときは



雪道ではブレーキに付着した水が凍結し、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。雪道に入る付近でブレーキを軽く踏みながら低速走行し、ブレーキのしめりを乾かしましょう。

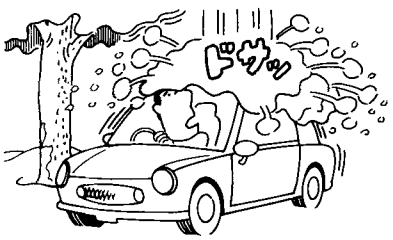
フェンダーの裏側についた雪がたい積し、ハンドルの切れが悪くなる場合があります。ときどき確認しましょう。

■駐車するときは



長時間の駐車はブレーキが凍結する恐れがあります。パーキングブレーキは操作せず、ギヤを🅿に入れ、車が動かないように輪止めをしましょう。

車庫内保管ができない場合は、朝日の当る方向又は風下に車を向けて始動しやすくしましょう。



落雪や積雪の重みで車の屋根などがへこむことがあります。軒下や樹木の下などには駐停車しないようにしましょう。

■走行後に洗車を

凍結防止剤をまいた道路を走行した場合は、早めに下まわりの洗車をしましょう。放置すると腐食しやすくなります。洗車後水分はよく拭き取りましょう。

タイヤ チェーン

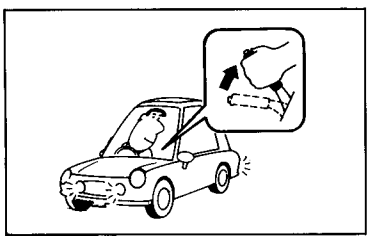
タイヤチェーンを装着するときは

タイヤサイズ
155SR12
165/70R12 77H

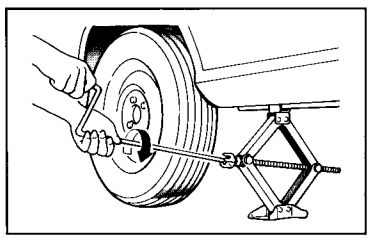
- タイヤチェーンは前2輪に取り付けます。
- 作業するときは、交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所で行ってください。また、けがをしないよう手袋（軍手）などを使用してください。
- タイヤチェーンはタイヤサイズに合った日産純正品のものを使用してください。

■取り付け方

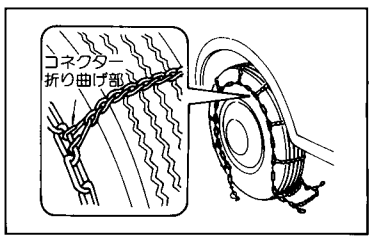
1 パーキングブレーキをいっぱいに引き、4ウエイフラッシャーランプ（非常点滅灯）を点滅させます。



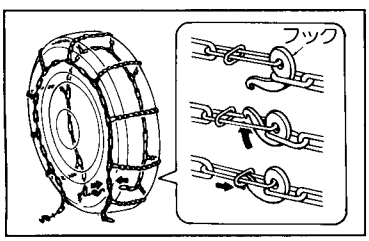
2 チェーンを取り付けるタイヤをジャッキアップします。
※ジャッキアップのしかた/P.75



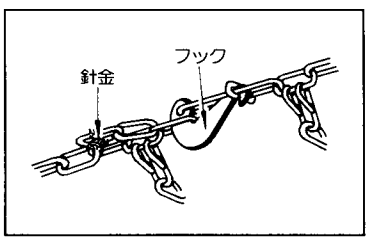
3 チェーンのコネクター折り曲げ部を外側にしてタイヤにかぶせます。



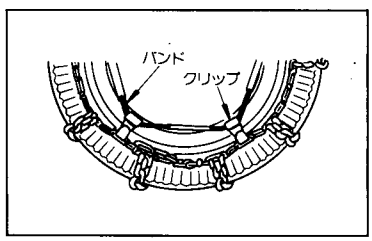
4 チェーンの両端をいっぱいに引っぱって内側のフックを次に外側を連結します。



5 余ったチェーンはボディーにあたるのを防ぐため針金で結びます。



6 チェーンバンドはクリップの爪を外側に向けてチェーンに等間隔にかけます。



7 2～3分走行後、チェーンにゆるみ、ずれがないことを確認します。

知識

- タイヤチェーンを装着するとホイールカバーに傷をつけるおそれがあります。ホイールカバーはタイヤチェーン装着時にはずしましょう。

■取り外し方

1 チェーンバンドを外し、針金をとり、フックは内側から先に外します。

2 車を動かし、チェーンを取り出します。

注　意

・チェーン装着時の走行速度は30km/h以下を厳守してください。
急発進、急加速及び急ハンドル、急ブレーキは絶対に避けてください。

・雪のない道路を走行すると路面を損傷し、またチェーンの摩耗が多く、寿命が短くなりますのでできるだけ避けてください。

知識

・タイヤチェーンは購入時タイヤに合わせてみて、長すぎる場合は、タイヤに合うように切ってください。

・使用後は、チェーン各部の摩耗、変形を点検します。長期間使用しない場合は、水洗い後乾燥させ防せい油（オイル）を塗布して保管してください。

寒冷時でのエンジンのかけ方

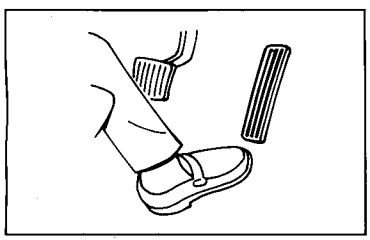
注　意

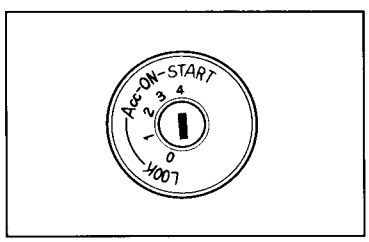
・始動直後はエンジンが冷えていますので、無用の空吹かしや、高回転にしないでください。エンジンのためによくありません。エンジンが暖機されているときでも無用の空吹かしや高回転の運転は行わないでください。

1 アクセルペダルは踏みません。

2 エンジンを始動します。連続10秒以上回さないでください。

3 暖機運転します。暖機されると自動的にエンジン回転が下がります。





知識

10秒間始動してもかからない場合

・一度キースイッチを1（OFF）位置にして電圧が回復するまで（10秒以上）待ってから再始動してください。

ワイパー

■寒冷地用ワイパーブレードの交換〈ディーラーオプション〉

日産純正部品を使用してください。

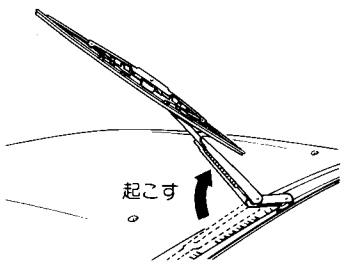
※ワイパーブレードの交換／P.92

知識

寒冷地用ワイパーブレードとは

・ワイパーブレードの金属部分をゴムで包み雪の付着を防止したものです。

ロックバック式ワイパーアーム

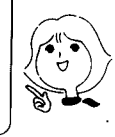


・ワイパーアームが中折れ式となっていてアームを起こすことができます。

・冬期の屋外駐車などでワイパーブレードがガラスに凍結することがありますが、アームを起こして凍結を防止することができます。

注　意

・ワイパーアームを起こしたままエンジンフードを開けると、エンジンフードやワイパーを損傷します。



緊急時の処置

故障したときは 68

発炎筒の使い方 ……68
エンストして始動できなくなったときは ……69
バッテリーあがりしたときは ……69
　ブースターケーブルの使い方 ……69
オーバーヒートしたときは ……70
ヒューズが切れたときは ……70
タイヤが砂地などにはまりこんだときは ……71

けん引されるときは 71

やむをえず自走でけん引されるときは ……71
ロープをかける位置 ……72

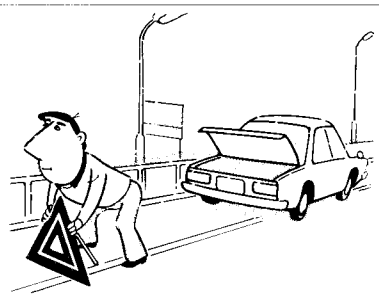
故障したときは

故障表示で安全確保を

●故障の際の安全標示

追突などの事故を防ぐため車を路肩に寄せ、非常点滅灯（4ウエイフラッシャーランプ）を点滅させるか、赤旗などで標示しましょう。

万一事故で燃料が流れ出ているような場合は、引火、爆発を防ぐためエンジンはすぐ止め、火気に注意しましょう。



●高速自動車道での停止標示板

高速道路などでは追突などの事故を防ぐため、車両後方の見やすい位置に停止標示板を置くことが道路交通法で義務付けられております。

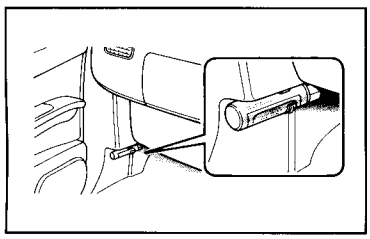
人は車内に残らず、路肩を歩いて安全な場所に避難しましょう。

緊急を要するときは発炎筒で合図を

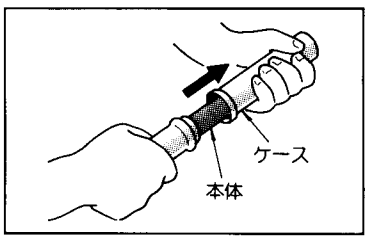
高速道路や踏切など危険な場所で故障し、緊急を要するときに使います。

●発炎筒の使い方

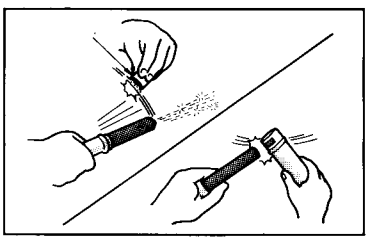
1 助手席足元部のホルダーから発炎筒をはずします。



2 本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆にしてケースに差し込みます。



3 点火部をケース（又は点火キャップ）のすり薬でこすって点火します。



注　意

- 顔やからだに向けると火傷の危険があります。
- ガソリンなど可燃物の近くでは火災を招く恐れがありますので避けてください。
- お子さまにはいじらせないでください。
- トンネル内で使用すると視界が悪くなり、逆に危険です。4ウエイフラッシャーランプなど他の方法を用いてください。

知識

- 点火すると約5分間燃え続けます。また有効期限（発炎筒に記載）がありますので、期限切れのときや使用したときは、交換しましょう。
- すり薬がケースについているものと、点火キャップについているものがあります。発炎筒に使い方が記載してありますので、事前に確認しておきましょう。

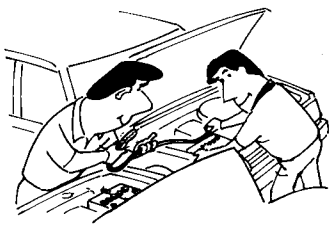
エンストして始動できなくなったときは

同乗者や付近の人に応援を求めて安全な場所まで押してもらいましょう。

注　意
・引きがけや押しがけで始動することは絶対にやめてください。

バッテリーあがりしたときは

バッテリーあがりはブースターケーブル（別売）で



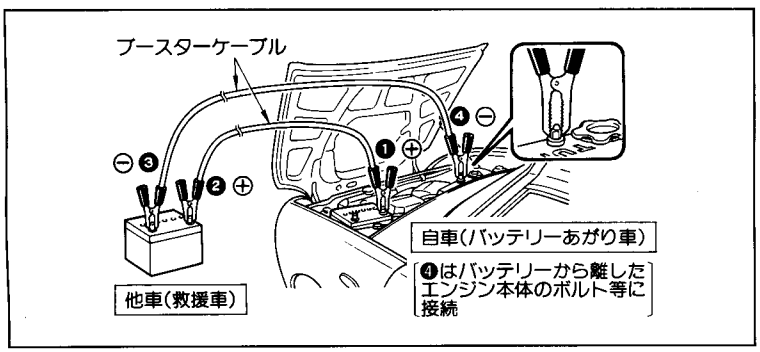
・バッテリーはいつも最良の状態にしておきましょう。万一バッテリーあがりしたときは他車に依頼し、ブースターケーブルで始動しましょう。始動したらすみやかに日産販売会社で点検を受け、バッテリーは完全充電してください。
ブースターケーブルは事前に用意し点検しておきましょう。

■ブースターケーブルの使い方

1 ブースターケーブルは図の番号順に接続します。⊕⊖を間違えないようにしてください。

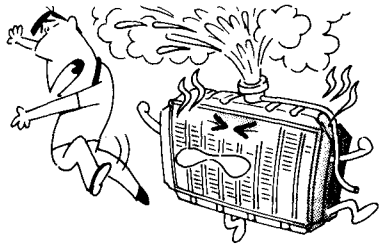
2 接続後、他車（救援車）のエンジンを始動させ回転数を少し高目にします。

3 自車(バッテリーあがり車)のエンジンを始動します。
※エンジンのかけ方/P.24
エンジンが始動したら取り付けの逆の順序でブースターケーブルを取り外します。
（必ず❹から取り外します。）



注　意
・救援車は自車と同じ電圧(12V)の車を使用してください。
・ケーブル接続の際には⊕と⊖端子を絶対に接続しないでください。
・ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないよう接続には十分注意してください。
・エンジン回転中にバッテリーのターミナルを外さないでください。
・❹の接続はバッテリーから離れたエンジン本体にしてください。自車（バッテリーあがり車）のバッテリーに直接接続するとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発する恐れがあります。
・バッテリーを交換するときはバッテリー上面にある記号が同じ物と交換してください。

オーバーヒートしたときは



安全な場所へ車を止めてください。
エンジンをかけたままエンジンフードを開け風通しをよくします。
水温計の針が下がってからエンジンを止めます。
冷却水やファン（オルタネーター）ベルトに、異常がない状態でたびたびオーバーヒートする場合は日産販売会社にご相談ください。

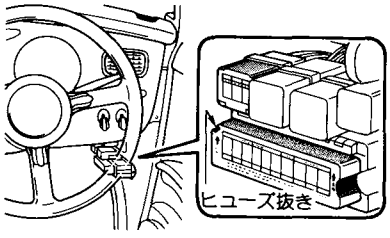
注　意

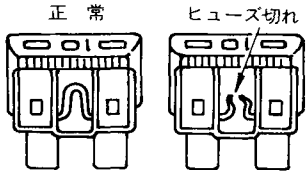
・エンジンが十分に冷えない内にあわててラジエーターキャップを外すと蒸気や熱湯が噴き出し思わぬやけどをすることがあります。

知識

・夏期に高速走行や登坂走行した直後にエンジンを止めるとエンジンの熱気がエンジンルーム内にこもり、水温計が適温範囲を越えることがあります。しばらくアイドル状態を続けてエンジンルームの熱気を放出してください。
・冬の気温の低い日などエンジン内部が凍結し、冷却水が循環せずオーバーヒートすることがあります。冷却水の不凍液（LLC）濃度の確保をお願いします。

ヒューズが切れたときは





●ヒューズボックスの位置
ヒューズボックスは室内のメーター右下部にあります。

●ヒューズの交換
❶キースイッチをLOCK位置にします。
❷へこみに指をかけて手前に引くとヒューズブロックカバーが開きます。
❸故障の状況から、ヒューズブロックカバーのヒューズ位置及び容量を確認します。
❹ヒューズ抜き部を差し込み、ヒューズを抜きます。
❺ヒューズが切れている場合は、ヒューズブロックカバー表面の表示に従い指定されている容量のヒューズと交換します。
❻取り付けは確実に差し込んでください。

注　意

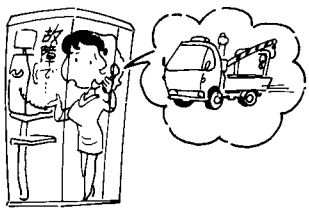
・指定容量を超えるヒューズや針金、銀紙などは電線の過熱焼損の原因になりますので、使用しないでください。
・交換しても、すぐにヒューズが切れる場合は、他に原因が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

タイヤが砂地などにはまりこんだときは

やたらにエンジンをふかしてタイヤを空転させるのはやめてください。空転させると増々深みにはまるばかりか、車のためによくありません。
タイヤがはまり込んだときは、ゆっくり後退させ空転寸前に前進に切り換え、これをくり返しだんだん反動を大きくして脱出します。
後退も前進もできないときは、タイヤの前後の土砂などをとり除き、傾斜をゆるやかにするか、ジャッキアップしてタイヤの下に板や石などをつめ込み脱出します。

けん引されるときは

けん引はできるだけレッカー車に依頼を

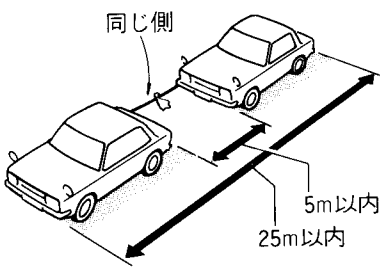


・車が故障で動かず、けん引を必要とする場合は安全のためできるだけ最寄りの日産販売会社へ依頼しましょう。
出先きでは整備手帳巻末の日産サービス網一覧を参考に日産販売会社かJAFへ依頼しましょう。

やむをえず自走でけん引されるときは

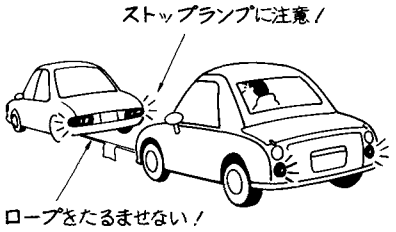
オートマチックトランスミッション内部のオイルが潤滑不良になり破損する恐れがあります。
できるだけ最寄りの日産販売会社へ依頼しましょう。やむをえずけん引される場合はセレクトレバーをⓃにし、車速30km/h以下、走行距離30km以内で、次の点に注意して行ってください。

■車間距離の確保を



図のように車間距離を保ちロープ中央に30cm四方以上の白布を付けましょう。また、ロープは水平に確実に取り付け、ボデーを傷付けないようにしましょう。運転者は互いに連絡を取り静かにけん引しましょう。
強いショックや横方向の力を与えないようにしましょう。

■ストップ ランプに注意する



けん引されるときは、けん引車のストップランプに注意し、ロープをたるませないようにしましょう。ギヤをN（ニュートラル）位置にし、ハンドルロックを防ぐためキースイッチはACC又はON位置にしましょう。

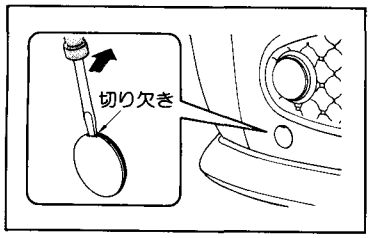
注　意

・エンジンが停止しているとブレーキ倍力装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなります。また、パワーステアリング装着車はハンドル操作が重くなりますので特に注意してください。

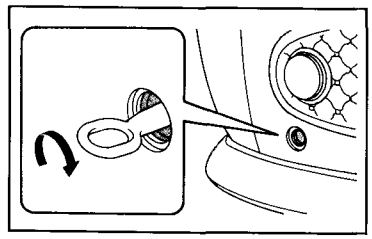
■ロープをかける位置

けん引用のフックは、工具袋の中に入っています。
けん引されるときだけ、下記の要領で取り付けてください。

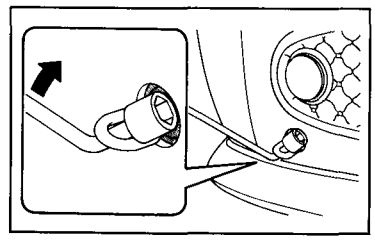
1 マイナス(－)ドライバーをふたの切り欠きに差し込み、ふたを外します。



2 フックを穴に差し込み、ある程度、手で締め付けます。



3 ホイールナットレンチを使い、回らなくなるまで締め付けます。



車載工具・タイヤ

車載工具 74

工具とジャッキ ……74

格納場所 ……74

ジャッキの脱着 ……74

ジャッキアップのしかた ……75

タイヤ 76

スペアタイヤ ……76

格納場所・取り出し方 ……76

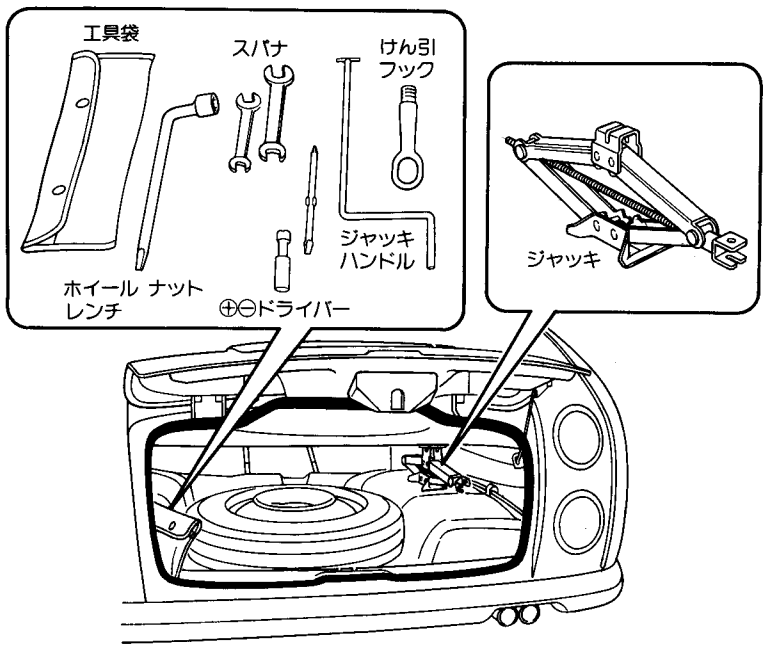
タイヤの交換 ……77

タイヤの位置交換 ……78

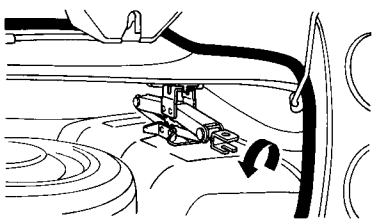
車載工具

工具とジャッキ

■格納場所



■ジャッキの脱着



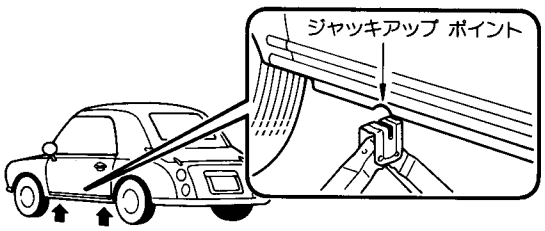
取り出すときは、ジャッキを手で回してゆるめ、ジャッキホルダーから横にはずします。

知識

・格納するときは取り外しの逆に行ってください。

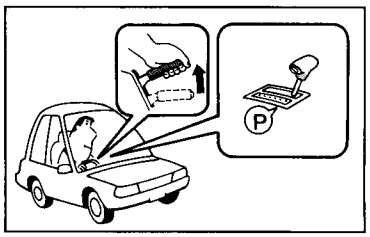
■ジャッキアップのしかた

ジャッキをかける位置(ジャッキアップポイント)

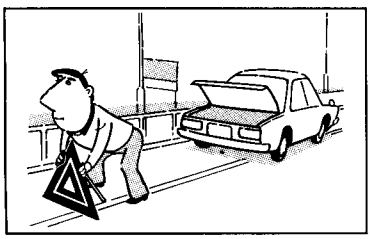


ジャッキアップポイント（切欠き部）の中心をジャッキヘッドの真ん中にセットします。

1 車を平らな地面の硬い場所に止めます。エンジンを止め、パーキングブレーキをかけ、ギヤをⓅにします。

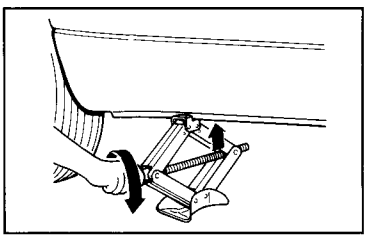


2 道路では非常点滅灯を点滅させて、必要に応じ停止標示板を置き、後方の安全を確かめます。

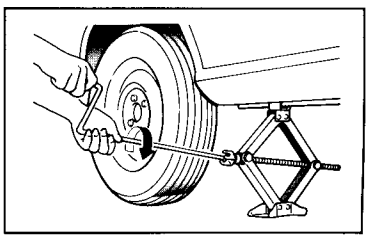


ジャッキアップするタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをかけます。

3 ジャッキを手で回しジャッキアップポイントにセットします。



4 ジャッキハンドルを回してタイヤと地面が少し離れるまでジャッキアップします。



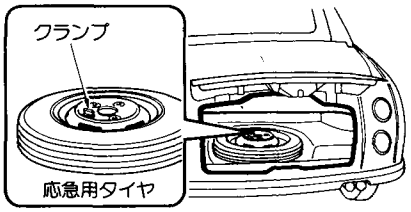
注　意

- 同乗者や荷物を安全な場所におろしてください。
- ジャッキアップ中は絶対にエンジンをかけたり、車の下にもぐりこんだり、のぞきこまないようにしてください。万一、ジャッキが外れたら非常に危険です。

タイヤ

スペアタイヤ

■格納場所・取り出し方



トランクルーム内に応急用タイヤを格納してあります。クランプを左に回して外し、タイヤを取り出します。

注　意
・この応急用タイヤはフィガロ専用です。
フィガロ以外には使わないでください。

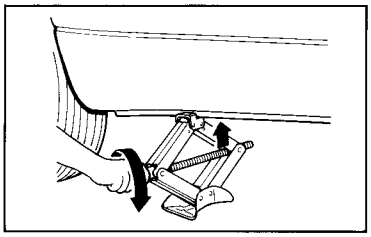
知識

応急用タイヤとは

・タイヤがパンク等の故障で使用できなくなった場合、一時的に使用するタイヤです。
・応急用タイヤの空気圧は標準タイヤより高く、使用時は4.2kg/cm²です。時々点検してください。
・100km/h 以下で走行してください。
・タイヤの直径が小さいため、車高が少し低くなりますので突起物などを乗り超えるとき、車の下にひっかけないように注意してください。
・雪道、凍結路では前輪に応急用タイヤを使わないでください。前輪がパンクした場合は応急用タイヤを後輪に用い、外した後輪を前輪につけてください。
・応急用タイヤにはチェーンは装着できません。前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪に用い、外した後輪にチェーンを装着して前輪につけてください。
・応急用タイヤですので、できるだけ早く標準のタイヤに戻してください。
・摩耗限度表示の出たタイヤは新品と取り換えてください。

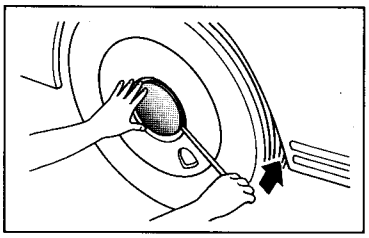
タイヤの交換

1 ジャッキのセット



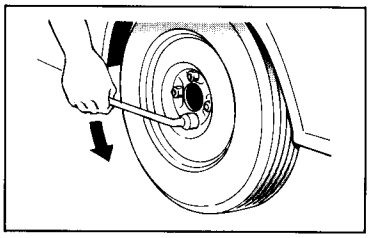
交換するタイヤに近いジャッキアップポイントにセットします。

2 ホイールカバーの取り外し



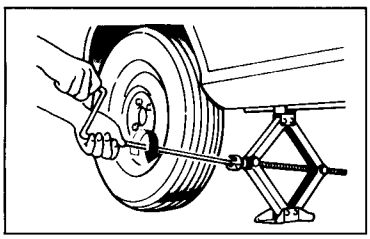
ホイールナットレンチやドライバーで外側のカバー、内側のキャップの順で傷を付けないように外します。

3 ホイールナットをゆるめる



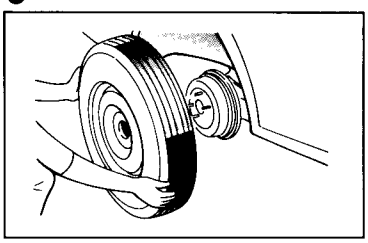
ホイールナットレンチでナットを左に回し少し（約1回転）ゆるめます。

4 ジャッキアップ



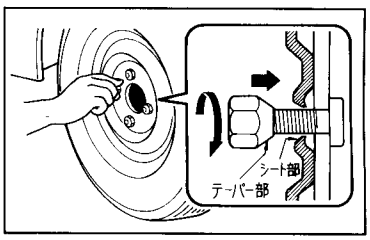
※ジャッキアップのしかた／P.75

5 タイヤの取り外し、交換



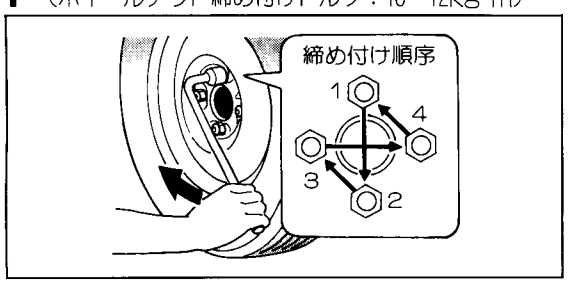
ホイールナットを外し、タイヤを交換します。

6 ホイールナットの仮り締め



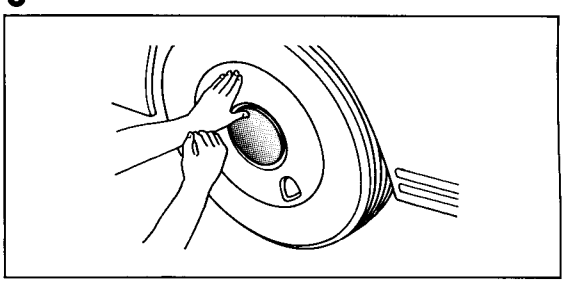
ホイールナットのテーパー部がシート部に軽くあたりタイヤがガタつかない程度まで右に回して締め付けます。

7 ホイールナットの締め付け（ホイールナット締め付けトルク：10～12kg-m）



タイヤが地面に接するまでジャッキを下げ、ホイールナットを対角線の順序で2～3回に分けて徐々に締め付けます。
最後の締め付けは確実に行ってください。

8 ホイールカバーの取り付け

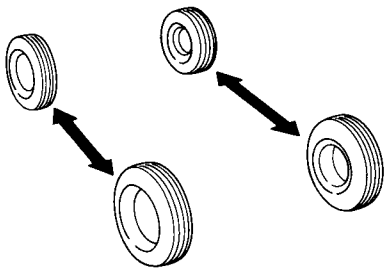


エアバルブ（空気注入口）とカバーの切り欠きを確実に合わせ、全周を均一に手で打ち込んでください。
応急タイヤにはホイールカバーは取り付けません。

注　意

- 締め付けるときは、レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。
- タイヤを脱着したときは、タイヤを取り付けて1,000km走行後、再度ホイールナットを締めつけてゆるみがないことを点検してください。
- 指定サイズで、同一の銘柄及びパターン（溝模様）のタイヤ（スノータイヤなどの冬用タイヤも含む）を4輪装着してください。異なったタイヤを個々に装着することは、安全性を損ないますので避けてください。
- タイヤの交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。

■タイヤの位置交換



タイヤの減り方を一様にし、寿命を伸ばすため適宜（約5,000kmごと）左図に従って行ってください。

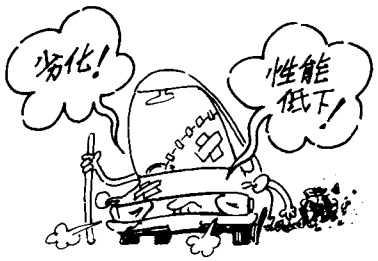
車のお手入れ

点検と整備 80
点検とお願い ……80
運行前点検・6か月点検と簡単な整備 ……81
点検及び簡単な整備方法……83
ボディー塗装のお手入れ 93
お車の清掃 ……93
洗車のしかた ……93
ワックスがけ ……94
軽補修 ……94
フッ素樹脂塗装車 ……94
内外装のお手入れ 94
カーペット類のお手入れ ……94
布材、ビニールレザーのお手入れ ……95
本革のお手入れ ……95
ホイールキャップのお手入れ ……95

点検と整備

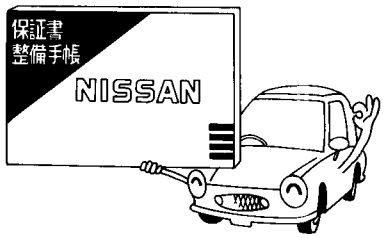
点検とお願い

■点検・整備の必要性



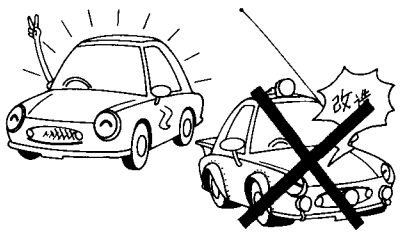
自動車は、使用期間と使用状態に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能低下が生じます。
劣化や性能低下を放置しておくと交通事故、路上故障、排出ガスと騒音増大の原因となり、燃費を増大させ、自動車の寿命を短くする原因ともなります。
自動車の点検・整備制度は、お客さまが「くるま社会」の安全と快適さを保つために必要です。

■定期点検整備記録簿の保管を



定期点検整備記録簿は、点検の結果と整備の概要を記録保存して、自動車の維持管理に役立てるものです。
保存期間は自家用乗用自動車などにあっては2年間、その他の自動車にあっては1年間となっています。自動車に整備手帳（定期点検整備記録簿）を必ず備えておきましょう。

■車の改造はしない



自動車は保安上、構造や装置等が運輸省令で定めた「道路運送車両の保安基準」に適合しなければなりません。
この道路運送車両の保安基準に適合しない突起物や幅広タイヤなどを車体外に突出させた改造などは、不正改造となり、処罰の対象になります。
むやみに改造しないでください。

■無線機搭載上のお願い

電子制御方式のエンジンコントロールユニットは外部からの電波障害に対して誤作動のないよう配慮してあります。
ただし、アマチュア無線用の無線機などを車に載せる場合はアンテナ引き込み線がコントロールユニット（配線を含む）の近くにありますと送信時エンジンが不調になったり、誤作動する恐れがありますので最寄りの日産販売会社へご相談ください。

運行前点検・6か月点検と簡単な整備

■運行前点検

運行前点検は、自動車を運行する人が、1日1回、運行前に行う点検です。この点検は、運転席にすわったり、エンジンルームをのぞいたり、また自動車の周りを回りながら自動車の状態をみることによって容易にできるものです。ここでは標準的な点検の実施方法について説明いたします。

■6か月定期点検

定期点検は、自動車を使用する人が定期的に行う点検です。自家用乗用自動車には6か月点検、12か月点検、24か月点検の3種類があります。ここでは自動車の構造、装置に関する基本的な構造、技術知識を有する者であれば自らでも実施可能なものを記載いたします。

■簡単な整備

ここでは点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要となった場合、通常行われることが多いものの代表例について、その実施の方法を説明します。
点検、整備の際に特に注意を要する事項は次のとおりです。

①安全な場所を選ぶ。
②適切な工具を使用する。
③エンジンは停止状態で行う。
④パーキングブレーキを十分にかけ、タイヤに輪止め(木片、石など)をかけるなどして車両を動かないようにして行う。
⑤自動車をリフトアップする場合には適切なジャッキを使用する。(自動車に備え付けの簡易なジャッキはタイヤ交換時に使用するものです。)

点検箇所・項目		点検の内容		簡単な整備の内容
		運行前点検	6か月点検	
前日の異常点検		・運行に支障がないか	—	—
運転席にすわって(運転席付近で)	パーキングブレーキレバー	・レバーの引きしろが適当か	・レバーの引きしろが適当か	—
	ブレーキペダル	・ペダルの踏み残りしろは適当か	・ペダルの遊びが適当か ペダルを強く踏み込んだとき、ペダルと床板とのすき間が十分か	—
	燃料装置	・燃料の量が十分か ※	—	—
	バックミラー(後写鏡)	・バックミラーの写影が良好か	—	—
エンジンルームをのぞいて	ブレーキ液のリザーバータンク	・ブレーキの液量が適当か	・ブレーキの液量が適当か、また、液漏れがないか	・ブレーキ液の補給
	エンジンオイル	・エンジンオイルの量が適当か ※	・オイルの量が適当か、また汚れていないか	・エンジンオイルの補給
	ラジエーターなどの冷却装置	・冷却水の量が適当か ※ ・水漏れがないか ※	・冷却水の量が適当か	・冷却水の補給 ・冷却水の交換
	ファンベルト	・ベルトの張り具合が適当か ※ ・ベルトに損傷がないか ※	・ベルトのゆるみ程度が適当か ・ベルトに損傷がないか	—
	パワーステアリングベルト	—	・ベルトのゆるみ程度が適当か ・ベルトに損傷がないか	・パワーステアリング液の点検、補給

点検箇所・項目		点検の内容		簡単な整備の内容
		運行前点検	6カ月点検	
エンジンルームをのぞいて	ウオッシャー液	—	—	・ウオッシャー液の補給
	バッテリー	—	・バッテリーの液量が適当か	・バッテリー液の補給 ・バッテリーターミナル部の清掃
	エアクリーナー	—	—	・エアクリーナーエレメントの交換
	オートマチックトランスミッションフルード	—	—	・オートマチックトランスミッションフルード量の点検・補給
車の周りを回りながら	灯火装置 方向指示器	・点滅具合に異常はないか ・レンズに汚れ、損傷がないか	・点灯又は点滅具合に異常がないか ・前照灯の明るさや照射方向に異常がないか ・方向指示器の点滅に異常がないか ・レンズに汚れ、損傷がないか、また取付状態にゆるみがないか	—
	反射器 ナンバープレート (自動車登録番号標)	・反射器に汚れ、損傷がないか ・ナンバープレートに汚れ、損傷がないか	—	—
	ブレーキホース パイプ	—	・ホースに漏れ、損傷がないか ・ホースの接続部から漏れがないか ・ホースが車体などと接触していないか	—
	タイヤ	・空気圧が適当か	・空気圧が規定値になっているか	・タイヤの交換 〔(車載工具、タイヤ)の項を参照〕
		・タイヤに亀裂、損傷がないか	・タイヤに亀裂、損傷がないか	
		・タイヤの溝の深さが十分か ※ ・タイヤに釘、石などの異物がささったり、かみ込んだりしていないか	・タイヤの溝の深さが十分か ・タイヤに異常な摩耗がないか ・タイヤに釘、石などの異物がささったり、かみ込んだりしていないか	
		・タイヤに異常な摩耗がないか	—	
	ワイパー	—	—	・ワイパーブレードの交換
ゆっくり走らせて	ブレーキペダルのきき具合	・ブレーキのききが十分か ・ブレーキに片ぎきがないか	・ブレーキのききが十分か、片ぎきがないか	—

※印の点検項目は80キロメートル毎時以上で走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には行わなくてもよいものです。

点検及び簡単な整備方法

■前日の異常箇所

運行前点検

前日又は前回の運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないか点検します。

■運転席にすわって

●パーキングブレーキ

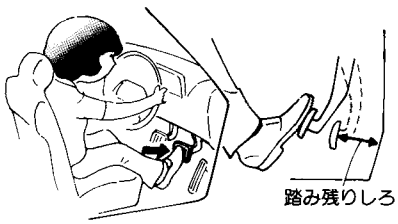
運行前点検

ブレーキをいっぱいにかけたとき、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検します。

6カ月点検

ブレーキをいっぱいに戻した状態から、静かにレバーを引き"カチカチ"音を数えて（ノッチ数）引きしろを点検します。

パーキングブレーキの引きしろ /（操作力20kg 時）	6～8



●ブレーキペダル

ブレーキペダルの踏み残りしろ

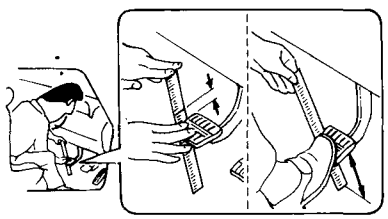
運行前点検 6カ月点検

ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んで床板とのすき間（踏み残りしろ）が適当であるか、またペダルをいっぱいに踏み込んだときの踏みごたえが適当であるかを点検します。
床板とのすき間が少なくなっているときや、踏みごたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の液漏れ、空気の混入によるブレーキのきき不良や片ぎきの恐れがあります。

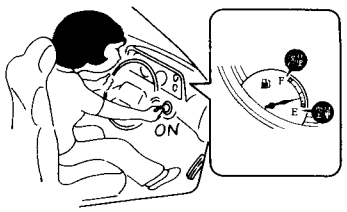
ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間

6カ月点検

ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し、遊びの量をスケールで点検します。次に、ブレーキペダルを強く踏み込んで床板とのすき間をスケールで点検します。



ブレーキペダルの遊び	4～13mm
踏み込んだときの床板とのすき間（踏力50kg 時）	95mm 以上



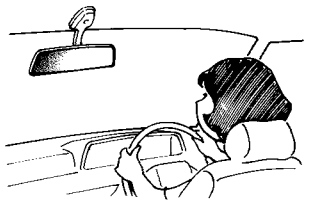
●燃料装置

運行前点検

キースイッチをON位置にして、燃料計により燃料の量が目的地まで走行するのに十分であるかを点検します。

燃料タンク容量　　単位：ℓ

ガソリン	約40

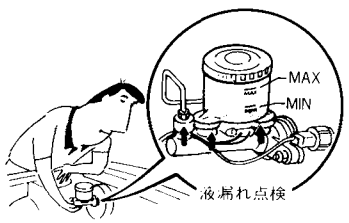


●バックミラー（後写鏡）

運行前点検

運転席に正しくすわって、後方や側方の状況が十分に確認できる位置にバックミラーが調節されているかを点検します。

■エンジンルームをのぞいて



●ブレーキ液のリザーバータンク

運行前点検　6か月点検

リザーバータンクの液量が上限（MAX）付近まであるかを点検します。

6か月点検

タンク周辺から液漏れがないか、目視や手でさわって点検します。

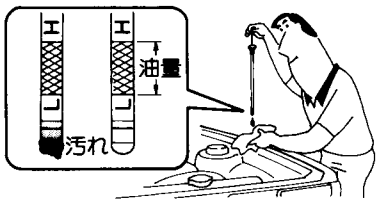
整備 ブレーキ液の補給

❶ブレーキ液が不足している場合は、キャップを外し、上限（MAX）までブレーキ液を補給します。

❷補給後は、キャップを確実に締め付けます。

注　意

- ブレーキ液は、上限（MAX）を超えて補給しないでください。
- ブレーキ液を補給するときは、タンク内にごみなどが入らないように十分注意してください。
- ブレーキ液を補給するときは、こぼさないようにしてください。車体にこぼしたときは、すぐに完全に拭き取ってください。
- 補給はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン温度が高いときに排気系統へブレーキ液が付くと発煙する危険があります。
- ブレーキ液は、日産純正のブレーキフルード（NR－3）をご使用ください。
- ブレーキ液量の減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。



●エンジンオイル

運行前点検　6か月点検

点検は、平らな場所でエンジンを始動する前か、又はエンジンを止めて、しばらくたってから行います。
エンジンを停止させ、オイルレベルゲージにより油量が目盛りの上限（H）と下限（L）の間にあるかを目視により点検します。

6か月点検

オイルレベルゲージに付着したオイルを手でさわるか、又は布などに付着させ、オイルの汚れ具合も点検します。

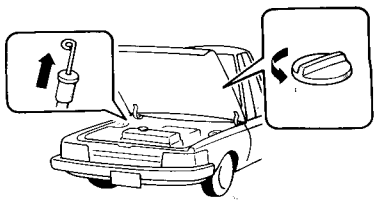
エンジンオイル量　　単位：ℓ（約）

オイルのみ交換時	2.7
オイルとフィルター交換時	2.9

知識

エンジンオイル量はドレーンプラグからオイルを抜いた場合の補給の量で、エンジン内部に残ったオイル量を差し引いた目安の量です。

整備　エンジンオイルの補給



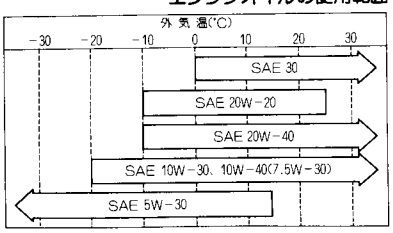
❶オイルフィラーキャップを取り外し、オイルを補給します。
❷オイル補給後、しばらくおいてから、オイルの量が規定の範囲になっているかをオイルレベルゲージで確認します。
❸キャップ及びレベルゲージを確実に取り付けます。

注　意

- 作業は平坦な場所で行い、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。
- 補給するときは、オイルフィラーからごみなどが入らないようにしてください。
- エンジン停止後や補給後、しばらく（15分以上）おかないと、エンジン上部にオイルが残り正確な量が測れません。
- オイルを上限(H)以上補給したり、下限(L)にたりない場合は、エンジン不具合の原因になります。HとLの間を保ってください。
- エンジンオイルは、日産純正品をご使用ください。またエンジンオイル粘度番号を外気温に応じて次の知識欄を参考にして使いわけてください。

知識

SEA(米国自動車技術者協会)分類による エンジンオイルの使用範囲



外気温に応じたエンジンオイルの使いわけ

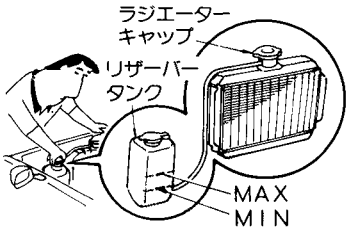
- 使用範囲の広い7.5W-30、10W-30、10W-40、20W-40のオイルを左表を参考にして使いわけてください。
- 30、20W-20は使用範囲が狭いので注意してください。

●エンジンオイル、オイルフィルターは交換時期の厳守を

交換は必ず下記の時期に行ってください。

エンジンオイル交換	SD、SE、SF級	5,000km又は6か月ごと
	SG級	10,000km又は1年ごと
オイルフィルターエレメント交換		10,000km又は1年ごと

エンジンオイルは、日産純正モーターオイル「ターボX」7.5W-30SG級が最適です。5W-30、20W-20などのオイルは使用しないでください。



●ラジエーターなどの冷却装置

冷却水の量

運行前点検　6か月点検

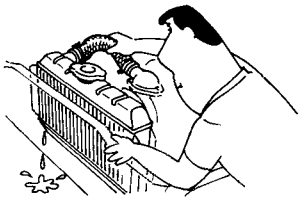
リザーバータンク内の冷却水の量がタンクの上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。

冷却水容量	約4ℓ

冷却装置の水漏れ

運行前点検

ラジエーター、ラジエーターホースなどから水漏れがないかを点検します。
また、車を止めておいた地面に水が漏れたあとがないかも調べます。



整備 冷却水の補給

❶冷却水が不足している場合は、リザーバータンクのキャップを外し、タンクの上限(MAX)まで冷却水を補給します。

❷通常はラジエーターキャップを外さないでください。ただし、リザーバータンクに冷却水がないときは、ラジエーターのキャップを外し、ラジエーターの口元いっぱいまで補給します。

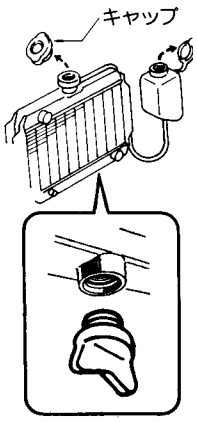
❸補給後はキャップを確実に取り付けます。

注　意

- 冷却水は、上限(MAX)を超えて入れないでください。
- 冷却水の温度が高いとき、急にラジエーターキャップを外すと蒸気や熱湯が噴き出し危険です。水温が下がってから、布きれなどでキャップを包み静かに開けてください。
- 冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエーター本体、ホース等から水漏れが考えられます。
- 冷却水の補給はLLC（ロングライフクーラント）の濃度を30%（寒冷地使用は50%）にしてご使用ください。LLC濃度を薄めて使用すると凍結し、ラジエーターを破損するばかりでなく、防錆力が低下し、ラジエーターの腐食の原因となります。

LLC濃度	30%	50%
凍結温度	−15℃	−35℃

整備 冷却水の交換



❶リザーバータンクを一旦外し、タンク内の冷却水を抜きます。
❷ラジエーターキャップを外し、ヒーターの温度調節レバーを「HOT」側にします。
エアコン付車はキースイッチをON位置にしてから温度調節レバーで30℃にセットします。
❸ラジエーターのドレーンコックをゆるめ、冷却水を抜きます。
❹水道水でラジエター内を洗浄し、ドレーンコックを閉めます。
❺LLCを入れます。(冷却水容量の30%(寒冷地使用時50%))
❻水を少しずつラジエーターの口元まで入れます。
❼ラジエーターキャップを取り付けます。
❽リザーバータンクの上限(MAX)まで冷却水(LLC濃度30%(50%))を入れます。
❾エンジンを始動し、しばらく(約10分間)暖機して停止します。
エンジン暖機時には水温の上がり過ぎに注意してください。
❿冷却水の温度が下がってから減り具合を確認し、減り具合が著しいときは❻～❾の手順を繰り返します。

注 意

- エンジンの始動は十分に安全を確認して行ってください。
- 冷却水の温度が高いとき、急にラジエーターキャップを外すと蒸気や熱湯が噴き出し危険です。ラジエーターキャップを開けるときは水温が下がってから布きれなどでキャップを包み、静かに開けてください。
- LLCは通常車検毎で交換です。日産純正のものをご使用ください。

●ファンベルト（オルタネーターベルト）

運行前点検　6カ月点検

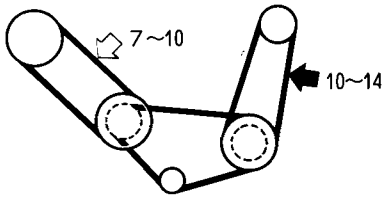
ベルトの中央部を手で押して（約10kgの荷重）、たわみ量を点検します。このときベルトに傷やひび割れがないかも調べます。

●パワーステアリングベルト

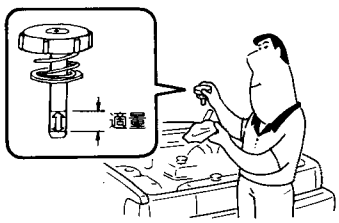
6カ月点検

プーリー間のベルトの中央部を手で押し下げて（約10kg荷重）、たわみ量をスケールで点検します。
このとき、ベルトに傷やひび割れがないかも点検します。

ベルトのたわみ量（⇩：ファンベルト（オルタネーターベルト）　⇩：パワーステアリングベルト）　（単位：mm）



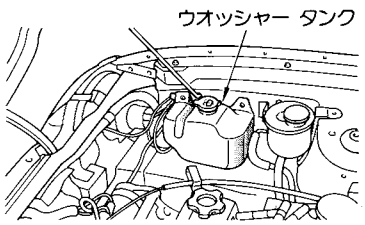
整備　パワーステアリング液の点検、補給



❶平らな場所で、エンジンを停止します。エンジンを冷やすためしばらく放置します。
❷キャップを回して外し、ゲージを汚れのない布でふき、キャップを元にもどします。
❸再度キャップを外して、液量が目盛りの適量レベルにあるかを点検します。
❹不足しているときは、日産純正「ニッサンパワーステアリングフルード」を規定量まで補給します。入れ過ぎないでください。
❺キャップを確実に締め付けます。

●ウオッシャー液

整備　ウオッシャー液の補給



ウオッシャー液の原液の希釈割合は、気温によって異なるので、次の割合にして希釈したウオッシャー液をタンクに補給します。

使用地域、季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	−10℃程度
寒冷地の冬期	原液1に水1	−20℃程度
極寒冷地の冬期	原液のまま	−30℃程度

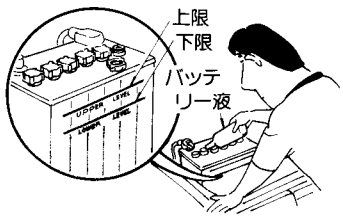
注意
・タンク内が空のままウインドーウオッシャーを使用するとモーターが破損することがあります。

●バッテリー

6か月点検

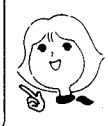
バッテリー各槽の液量が上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあるかを目視により点検します。

整備 バッテリー液の補給

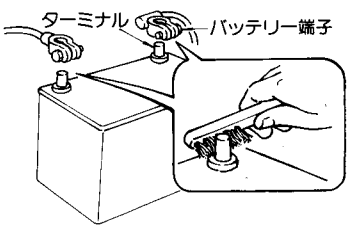


❶バッテリー液が不足している場合は、キャップを外し、各槽とも上限（UPPER）まで補充液、又は蒸留水を補給します。
❷補給後はキャップを確実に締め付けます。

注　意
・バッテリー液は、腐食性が大きく皮膜炎を起こしたり、金属を腐食させるなど非常に危険なので、人体、衣服、車体などに付着しないよう取り扱いには十分注意してください。



整備 バッテリーターミナル部の清掃

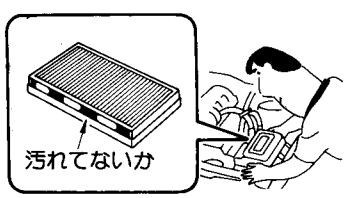


❶ターミナル部に汚れや腐食があるときは清掃します。（ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭くとよく落ちます。）
❷ターミナル部の腐食が著しいときは、ターミナル部を取り外して、ワイヤブラシ、サンドペーパーでみがきます。
❸清掃、締め付け後はターミナル部にグリースなどを薄くぬっておきます。

注　意
・作業時は、必ずエンジンを停止してください。
・作業中、バッテリーの⊕⊖端子が工具などにより、ショートしないよう注意してください。
・清掃のときは、バッテリー槽内に異物が入らないように、注液口のキャップは締めておいてください。
・ターミナルからバッテリー端子を取り外す場合はアース（⊖）側の端子から外してください。また、取り付ける場合は、アース側の端子を最後に取り付けてください。
・ターミナル側にゆるみが生じないよう確実に締め付けてください。

●エア クリーナー

整備 エアクリーナーエレメントの交換

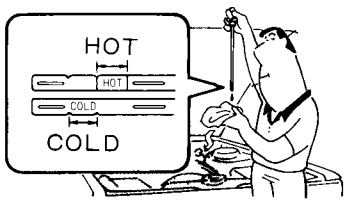


❶クリップ、ナットなどの締付金具を外し、カバーを取り外します。
❷清掃すると目詰まりを引き起こす恐れがあるので清掃しないでください。
❸エレメントを交換した後、カバーを取り付け、クリップ、ナットなどの締付金具を確実に締め付けます。

注　意
・カバーを取り外したとき、ナットを落したりしないようにしてください。
・取り外したカバーやナットをエンジンルーム内に置いたままエンジンをかけると、けがをしたり、部品が破損する恐れがあります。

●オートマチックトランスミッション

整備 オートマチックトランスミッションフルード量の点検・補給



フルード量の点検はエンジンをかけ、アイドル状態で行います。

❶エンジンを暖機した後、約10～15分間走行します。

❷車を水平な場所に置きパーキングブレーキをかけます。

❸エンジンをアイドル状態にし、ブレーキペダルを踏みながら、セレクトレバーを㊂～❶～㊂まで動かし㊂に固定します。

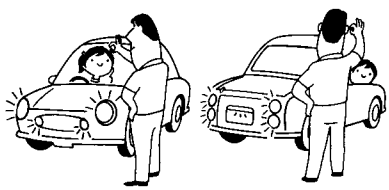
❹レベルゲージに、ごみやちりが付着しないようきれいにふき、再びもどしてから、レベル ゲージの「HOT」範囲内にあるか点検します。

❺フルードが不足したまま走行すると、走行不能になる恐れがありますので、レベルゲージ挿入口より指定フルードを「HOT」範囲内になるよう補給します。

注 意

- オートマチックトランスミッションは油圧制御部品ですので、ごみやちりを極度にきらいます。フルードの点検、補給はできるだけ日産販売会社で受けてください。
- フルードが冷えているときはレベルゲージの「COLD」範囲内にあるか点検します。その後必らずエンジン暖機後の点検要領で、「HOT」範囲内にあるか点検してください。
- フルードの入れすぎは液漏れの原因になりますので入れすぎないでください。
- フルードを補給するときはごみが入らないようにし、補給後はレベルゲージを確実に差し込んでください。
- フルードは日産純正フルードをご使用ください。（エンジンフード裏側又はエンジン カバー裏側のコーションラベルを参照してください。）

■車の周りを回りながら



電球（バルブ）

項目		容量（V-W）
前照灯		12-60/55
車幅灯		12-5
番号灯		12-5
尾灯／制動灯		12-5/21
ハイマウントストップランプ		12-12
後退灯		12-18
方向指示灯兼非常点滅表示灯	前/後	12-18/21
	側面	12-5

●灯火装置・方向指示器

運行前点検

キースイッチを ON 位置にして、前照灯、尾灯、番号灯、車幅灯、後退灯、方向指示器などを作動させ、点灯又は点滅するかを点検します。また、ランプ類や反射器などのレンズに汚れや損傷がないかも調べます。ブレーキペダルを軽く、繰り返し踏み、制動灯が点滅するかを点検します。点検は、壁やミラーを利用するか、他の人にみてもらうなどして確認します。

6カ月点検

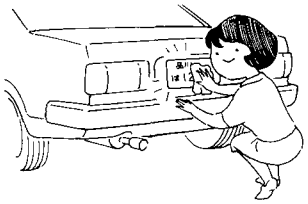
前照灯を点灯させ、明るさが不足していないか、また、照射方向が著しく狂っていないかを目視などにより点検します。

前照灯のレンズに破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか手でさわって点検します。

キースイッチを ON 位置にして、車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯、番号灯などを作動させ、各ランプが点灯、又は点滅するかを目視により点検します。

キースイッチを ON 位置にして、方向指示器を左右に作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。

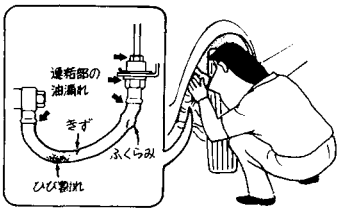
各灯器、方向指示器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



●反射器、ナンバープレート（自動車登録番号標）

運行前点検

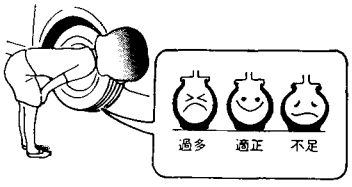
ランプ類や反射器などのレンズに汚れや損傷がないか調べます。
ナンバープレートに著しい汚れや損傷がなく、番号などが明りょうに識別できるかを点検します。また、ナンバープレートが確実に取り付けられているかも手でさわって調べます。



●ブレーキホース・ブレーキパイプ

6か月点検

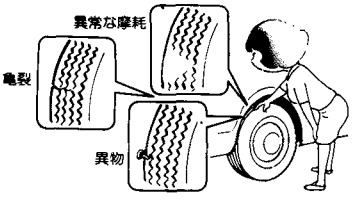
ハンドルを左にいっぱいに切った状態で、左側フロントブレーキのブレーキホースに傷、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、又は手でさわって点検します。
また、ホースが車体などと接触していないか、ホースの接続部から液漏れがないかも点検します。
次に、ハンドルを右にいっぱいに切り、右側のフロント ブレーキについても左側同様に点検します。



●タイヤ

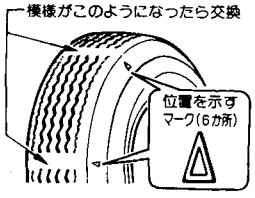
運行前点検

タイヤ接地部のたわみ状態をみて、空気圧が適当であるかを点検します。
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、極端にすり減っている箇所がないかを点検します。
タイヤが摩耗したら早めに取り替えましょう。
その他、タイヤに釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかも点検します。



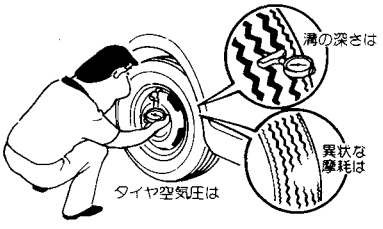
6か月点検

タイヤゲージにより、空気圧が規定値にあるかを点検します。
タイヤ接地面の全周と両側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。
タイヤ接地面に表示されている摩耗限度表示、又はデプスゲージ（又はノギス）により溝の深さが1.6mm以上あるかを点検します。
タイヤの全周に片減りや局部摩耗、段付摩耗がないかを目視により点検します。
その他、タイヤに釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかも点検します。



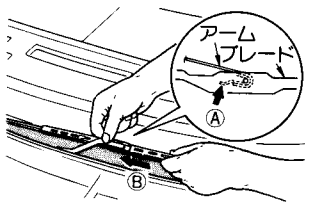
タイヤ空気圧 (kg/cm²)

タイヤ サイズ	前 輪	後 輪
155SR12	2.2	2.2
165/70R12 77H	2.0	2.0

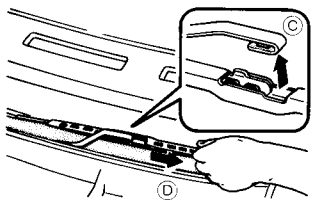


●ワイパー

整備 ワイパーブレードの交換



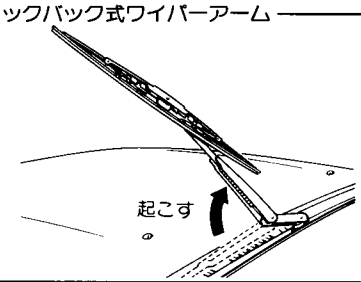
❶ブレードの爪Ⓐを押しながらブレードをアーム側に押し込みⒷ、ブレードをはずします。



❷新しいブレードをアームに入れⒸ、ブレードを引っぱりますⒹ。
❸ブレードが確実に入っていることを確認します。

知識
- ワイパーアームを起した状態で交換できます。
- ゴムだけの交換もできますので日産販売会社で、お買い求めください。

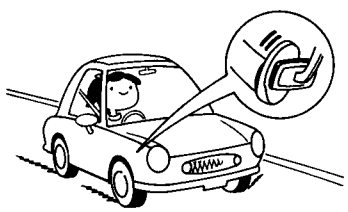
ロックバック式ワイパーアーム



- ワイパーアームが中折れ式となっていてアームを起こすことができます。
- 冬期の屋外駐車などでワイパーブレードがガラスに凍結することがありますが、アームを起こして凍結を防止することができます。

知識
- ワイパーアームを起こしたままエンジンフードを開けると、エンジンフードやワイパーを損傷します。

■ゆっくり走らせて



●ブレーキのきき具合

6カ月点検

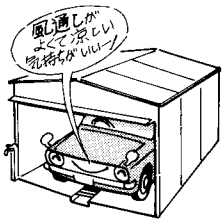
乾燥した路面で低速走行して、ブレーキをかけ、ブレーキのききが十分であるか、ブレーキが片ぎきしないかを点検します。

ボデー塗装のお手入れ

車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが必要です。

塗装面がきらう主な要因及び処置

駐車、保管場所に注意しましょう。
次のような場合は、錆、変色の原因となりますので、必ず洗車してください。
・海岸地区や凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
・ばい煙、鳥のふん、樹液、鉄粉、虫の死がいなどが付着したとき。
・泥、ほこりなどでよごれがひどいとき。

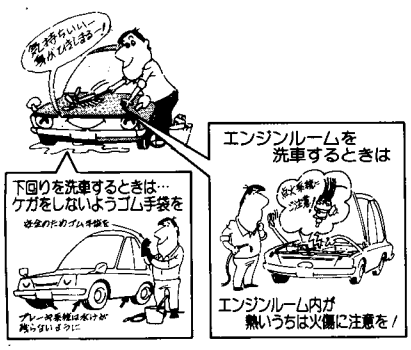


できるだけ風通しのよい車庫や屋根のある場所に保管しましょう。
屋外に駐車する場合は、日陰か、又はボディーカバーをかけるようにしてください。ボディーカバーをかける際アンテナは確実に格納しましょう。

■お車の清掃

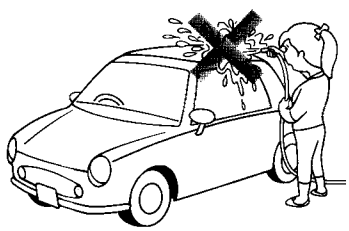
走行後は塗装面に付着しているほこり、汚れなどを軽く拭き払うか、拭き取りましょう。
特にブラック、レッド、マルーン、ダークブルーなどの濃彩色は、傷がめだちやすいため、できるだけ毛ばたきで軽く払うか、手洗い洗車で清掃してください。

■洗車のしかた



車体に水をかけながら柔かい布やセーム皮でよごれを洗い落します。塗装面にはん点が残らないように水を拭き取ります。

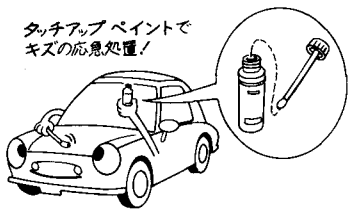
注　意
・自動洗車機や高圧洗車機は使わないでください。
・幌とルーフサイドの合わせ目にホースなどで直接、水をかけないでください。室内に水が侵入することがあります。
・塗装面が熱くなっているとき中性洗剤を用いるとはん点ができることがあります。注意してください。
・中性洗剤などを用いたときは、十分水洗してください。
・エンジンルーム内の電気部品には水をかけないでください。エンジン始動不良や、エンジン不調等の原因になります。



■ワックスがけ

ワックスがけは１ケ月に１回程度、または水のはじきが悪くなったときに行うことをお奨めします。
洗車後、車体が熱くないときに行い、炎天下での作業はさけてください。シミなどの原因になります。
ワックスに記載してある説明をよく読んでからお使いください。
ワックスはコンパウンド（研磨材）の入っていない日産純正ワックスハード又はシュワラスターインペリアルブライトマスター等をご使用ください。（お客さまの車の塗装、ご要望に合わせたワックスの選択例を最終ページにご案内しております。）

■軽補修



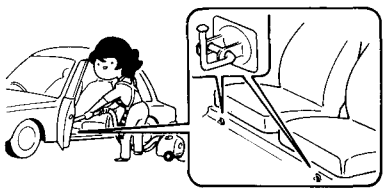
早目に、キズ部に塗布することにより、さびの早期発生を防止し、より塗装面を長持ちさせます。
タッチアップペイントの色は、ボディーの塗装面と若干異なる場合があります。

■フッ素樹脂塗装車

フッ素樹脂塗装車には識別ラベルがリヤウインドーガラスに貼布してあります。
中性洗剤を用いて洗車することで、普通塗装車にくらべ長期間にわたり塗装面の輝きを維持します。ただし、フロント及びリヤバンパーはフッ素樹脂塗装をしておりませんので水のはじきが悪くなったときはワックスがけをお奨めします。
ワックスがけをするときは、日産純正フッ素樹脂塗装専用カーワックス「フッソコート」をご使用ください。「フッソコート」がないときは、コンパウンド（研磨材）の入っていないメタリック塗装用ワックスをご使用ください。

内外装のお手入れ

■カーペット類のお手入れ



電気掃除機などでほこりを取り除き、カーペットシャンプーなどで汚れを落してください。
汚れを落した後はドライヤーなどで乾燥させてください。
カーペットシャンプーの取扱説明を参照してください。
フロアカーペットは運転席、助手席足元のカーペットフックで固定します。

■布材、ビニール レザーのお手入れ

合成洗剤を含んだ水溶液をガーゼなど柔らかな布に含ませ軽く拭き取ってください。
その後真水にひたした布を固くしぼって洗剤をきれいに拭き取ってください。
洗剤は2～3%以上の濃度にしないでください。
また乾燥は直射日光を避け風通しのよい日陰で行ってください。
油などの汚れはガーゼにベンジンなどを含ませて軽くたたくようにして拭き取ってください。

■本革のお手入れ

本革のお手入れには日産純正本革リフレッシュセット（本革シートクリーナー及び本革シート保護剤）をご使用ください。スプレー本体に記載されている取り扱い説明をよく読んでからお使いください。

一般的なお手入れ方法

ガーゼやウールなど柔らかい布で時々、空拭きしてください。
ほこり程度の汚れは、柔かい布で拭いてください。
水溶性の汚れは柔らかい布をぬるま湯にひたし、固くしぼってから汚れを拭き取り、次に空拭きしてください。
油性の汚れは、ぬるま湯に中性洗剤を溶かし、柔らかい布にひたして汚れを拭き取ってください。
洗剤は2～3%以上の濃度にしないでください。
その後、真水にひたした布を固くしぼって洗剤をきれいに拭き取り、次に空拭きしてください。
ベンジン、シンナー類の使用は避けてください。皮革表面の色落ちや光沢が無くなるなど皮革をいためます。
直射日光に長期間さらしますと、皮革表面の変色、変質の原因となる恐れがあります。夏期は特に日よけに心がけるようにしてください。

索　引

ア

アンテナの取り扱い……59
ウインドーガラス……36
ウオッシャースイッチ……18
ウオッシャー液の補給……88
エアコン……57
エアクリーナーエレメントの交換……89
エンジン始動前の安全確認……24
エンジンオイルの補給……85
エンジンフード……38
エンジンのかけ方、止め方……24
オイルプレッシャー警告灯(油圧警告灯)……12
オドメーター(積算距離計)……10
オートマチック(自動変速機)車の取り扱い方……28
オートマチックトランスミッション
　フルード量の点検・補給……90

カ

寒冷時の取り扱い……61
　寒冷時の全般的な取り扱い……62
　タイヤチェーン……64
　エンジンのかけ方……65
キー、キースイッチ……22
緊急時の処置……67
故障したときは……68
エンストして始動できなくなったときは……69
バッテリーあがりしたときは……69
オーバーヒートしたときは……70
ヒューズが切れたときは……70
タイヤが砂地などにはまりこんだときは……71
けん引されるときは……71
グローブボックス……51
車のお手入れ……79
警告灯……12
工具とジャッキ……74

サ

サンバイザー……50
シートベルト警告灯……13
シート・シートベルトの使い方……45
シート……46
シートベルトの装着……48
　ELR(緊急固定)付3点式シートベルト……48
車載工具・タイヤ……73
スイッチの使い方……15
スピードメーター(速度計)……10
スペアタイヤ……76
セレクトレバー……28
センターコンソール……51

タ

タコメーター(エンジン回転計)……11
球(バルブ)切れチェック……12
ターンシグナル(方向指示)……17
タイヤチェーン……64
タイヤの交換……77
チャージランプ(充電警告灯)……12
テンプメーター(水温計)……11
点検と整備……80
　点検とお願い……80
　運行前点検・6か月点検と簡単な整備……81
　点検及び簡単な整備方法……83
電源取出口……51
ドア……36
　車外からの施錠・解錠……36
　車内からの施錠・解錠……36
ドアミラー……34
時計……50
トランク……39

ナ

内外装のお手入れ……94

ハ

排気温度警告灯……13
パーキング(駐車)ブレーキ……34
バックミラー(後写鏡)……34
バッテリー液の補給……89
バッテリーターミナル部の清掃……89
パワーウインドー……36
パワーステアリング液の点検、補給……88
灰皿……50
ヒーター・エアコンの使い方……53
フューエルメーター(燃料計)……11
ブレーキ警告灯……13
ブレーキ液の補給……84
4ウエイフラッシャーランプ(非常点滅灯)スイッチ……17
フューエルフィラーリッド(燃料補給口)……38
フロントシート……46
ヘッドレスト……47
ホーンボタン……19
ボディー塗装のお手入れ……93
幌……40
　幌の開閉……41
　幌の取り扱い……43

マ

メーター……10

ラ

ライトコンビネーションスイッチ……16
リヤシート……47
リヤデフオッガースイッチ……19
ルームミラー……34
ルームランプ……50
冷却水の補給……86
冷却水の交換……87

ワ

ワイパー……66
ワイパー・ウオッシャースイッチ……18

純正部品のおすすめ

お車の健康に

- たとえば、私たちの体に異った血液が入ると拒否反応を起こすように、車も同じ働きを持つ部品だからと言ってどんな部品でもよいと言う訳ではなく、その車に合った部品が必要です。
- 日産自動車では厳しい検査規格に合格し、性能品質を保証している部品（油脂類含む）を**「日産純正部品」**と呼び、広く日産車をご愛用の皆さまにお届けしております。

エンジン オイル	LLC（ロング ライフクーラント）	ブレーキ フルード	ウオッシャー液	バッテリー液	オイル フィルター エレメント	エア クリーナー エレメント
エンジンを円滑に駆動させる潤滑油です。	すぐれた防錆性能を備えたオールシーズンタイプの不凍液です。	ブレーキ及びクラッチの作動液です。	ウインドーの洗浄液です。	バッテリーの充電、放電を円滑にする液です。	エンジンオイル内の不純物をろ過する部品です。	エンジン内に送り込む空気をろ過する部品です。

- 新車時の性能と快適な乗り心地をいつも維持していただくために、点検、交換の際は最寄りの販売会社へご相談ください。
- お近くの修理工場、ガソリン　スタンドなどをご利用の際には必ず**「日産純正部品」**とご指定ください。

カーワックスのご案内

- お客様のお車の塗装、ご要望に最適なワックスを絞ってご案内します。
- お車の塗装の種類により相性のいいワックスを下表よりお選びください。

お客さまのお車の塗装 ＼ お客さまのご要望		光沢と持続性重視	特に持続性を重視	経済性を重視	作業性を重視	水あか落としも同時に
一般の塗装車	白および淡い色	①②	③④	⑤	⑥⑦	⑥⑦
	黒および濃い色	①②	④	⑤		⑥
	おろしたての新車	①②	④	⑤		⑥
※メタリック塗装車（パール塗装含む）		①②	④	⑤		
※フッ素樹脂塗装車		①②	④	⑤		

①（カーワックス）フッソコート	②シュワラスター インペリアル ブライトマスター	③ピュア コートセット	④ピュア コート	⑤（カーワックス）ハード	⑥クリーナー ワックス ムースタイプ	⑦ニュー ゴールドDX
フッ素樹脂塗装車専用最高級ワックス（固型）	天然素材最高級ワックス（固型）	光沢被膜が3ケ月以上持続。洗浄剤とセット（液体）	光沢被膜が3ケ月以上持続（液体）	経済的なワックス（固型）	汚れ落としとワックスがけが同時（ムースタイプ）	汚れ落としとワックスがけが同時（液体）

※メタリック塗装車、フッ素樹脂塗装車は塗装色などには関係ありません。　（注）カーワックスの効果は車の使用状況により異なります。

- スペア　キーは別に保管するとともに、キー番号は必ずひかえておきましょう。
- お車をゆずられる場合、次のオーナーのためにお車とともに取扱説明書、整備手帳をつけておいてください。
- 本書は車の中に保管してください。

もっと楽しく 感じるままに— 技術の日産

NISSAN NISSAN

フィガロ FK10

お問合わせ、ご相談は下記にお願いします。

日産自動車株式会社　お客様相談室

〒104 東京都中央区銀座6丁目17番1号

○札　幌 (011)722−8823　○東　京 (03)3545−2323

○名古屋 (052)951−8823　○大　阪 (06)536−1123

○福　岡 (092)451−8823

NISSAN 日産自動車株式会社

発行　1991年2月

印刷　1991年6月

UX250-T12 00